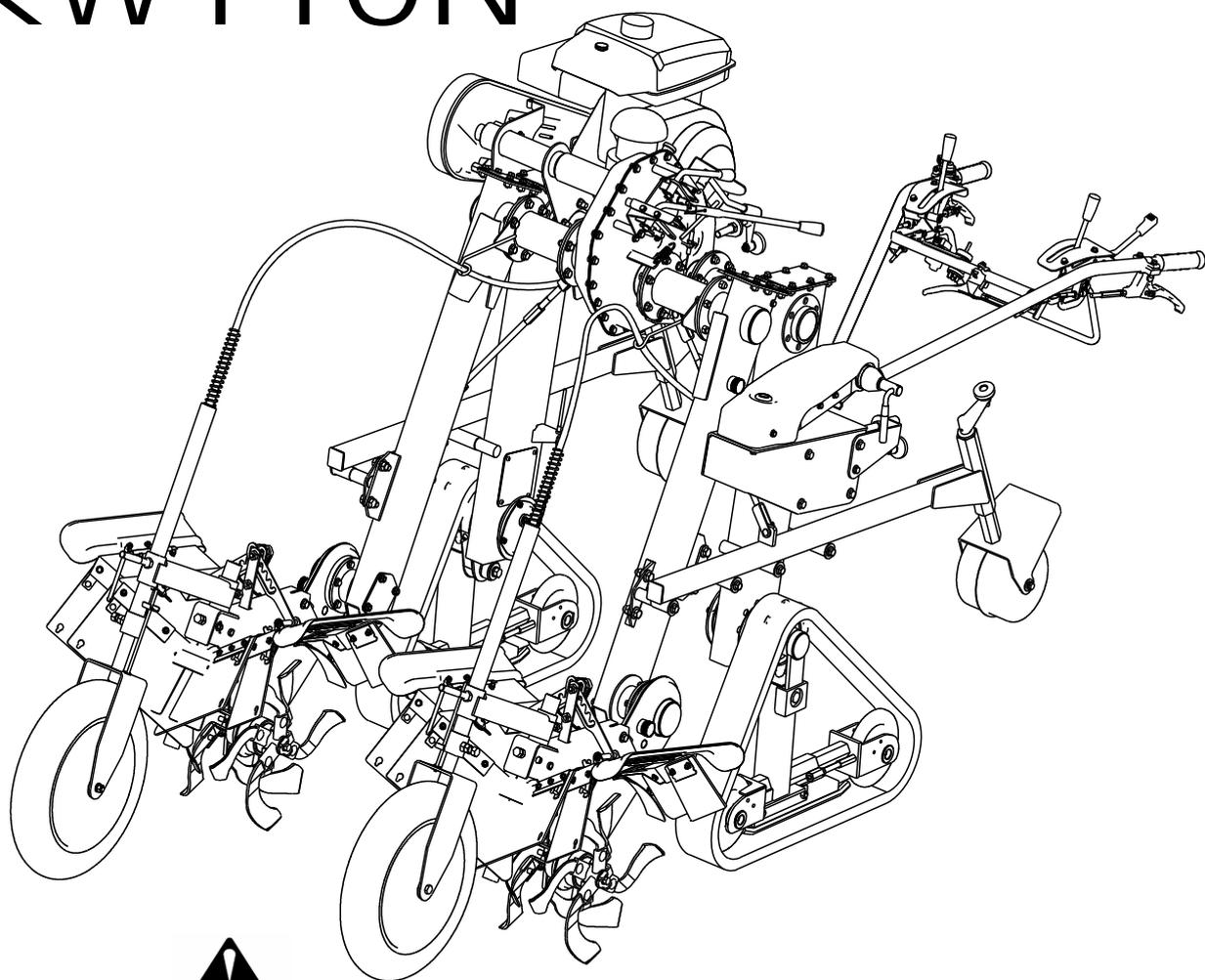


# ヘルパー管理機

## 取扱説明書

### KW110N



当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



関東農機株式会社

## 操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように注意してください。



エンジン停止



チョークレバー



ガソリン燃料

## 専門用語の説明

O

燃料コック[開]

C

燃料コック[閉]

## 本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。

使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

(詳細は保証書をご覧ください。)

# はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。  
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。  
ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。  
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に張られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。  
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### ■ 注意表示について

本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように説明しています。

-  **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。
-  **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。
-  **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを表示します。

# 目次

## ▲ 安全に作業するために

機体方向の説明	！-1
諸注意事項	！-2
警告ラベルと貼り付け位置	！-6

## サービスと保障について

1

## 各部の名称と装置の取扱い

各部の名称とはたらき	2
主クラッチレバー	4
ロータリクラッチレバー	4
締付ネジ	4
高さ調節レバー	4
サイドクラッチレバー	5
セーフティーレバー	5
エンジンスイッチ	6
キースイッチ	6
リコイルスタータ	6
主変速レバー	6
副変速レバー	7
ロータリ変速レバー	7
燃料コックレバー	7
燃料キャップ	8
マフラ	8
スロットルレバー	8
チョークレバー	8

## 作業前の点検

調子よく作業するために	9
安全に作業するために	10

## 運転のしかた

新車時の扱いかた	12
ならし運転	12
エンジンの始動と停止のしかた	12
始動のしかた	12
停止のしかた	14
発進のしかた	15
耕深の調節	15
落下防止ステーの取り付け方	16
ハンドル高さの調節	16

## 作業のしかた

上手な作業のしかた	17
土揚げ作業手順	17
旋回手順	17
耕深の調節(前輪の使い方)	18

## 管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について	19
日常の手入れ	19
エンジンオイルの交換	19
ミッションオイルの交換	19
グリスの塗布、注入箇所	21
エアクリーナエレメントの清掃とオイルの交換	22
燃料フィルタの清掃	23
点火プラグの調節・清掃・交換	23
ベルトテンションの調整	24
ロータリクラッチレバーの調整	25
高さ調節レバーの調整	25
サイドクラッチ/ブレーキの調整	25
スロットルレバーの調整	26
クローラの調整	26
使用後の手入れ	27
エンジン始動不良を防ぐために	27
長期保管時の手入れ	27
燃料の抜き取り	27
洗浄時の注意	28

## 管理機を運搬する時

29

## 付表

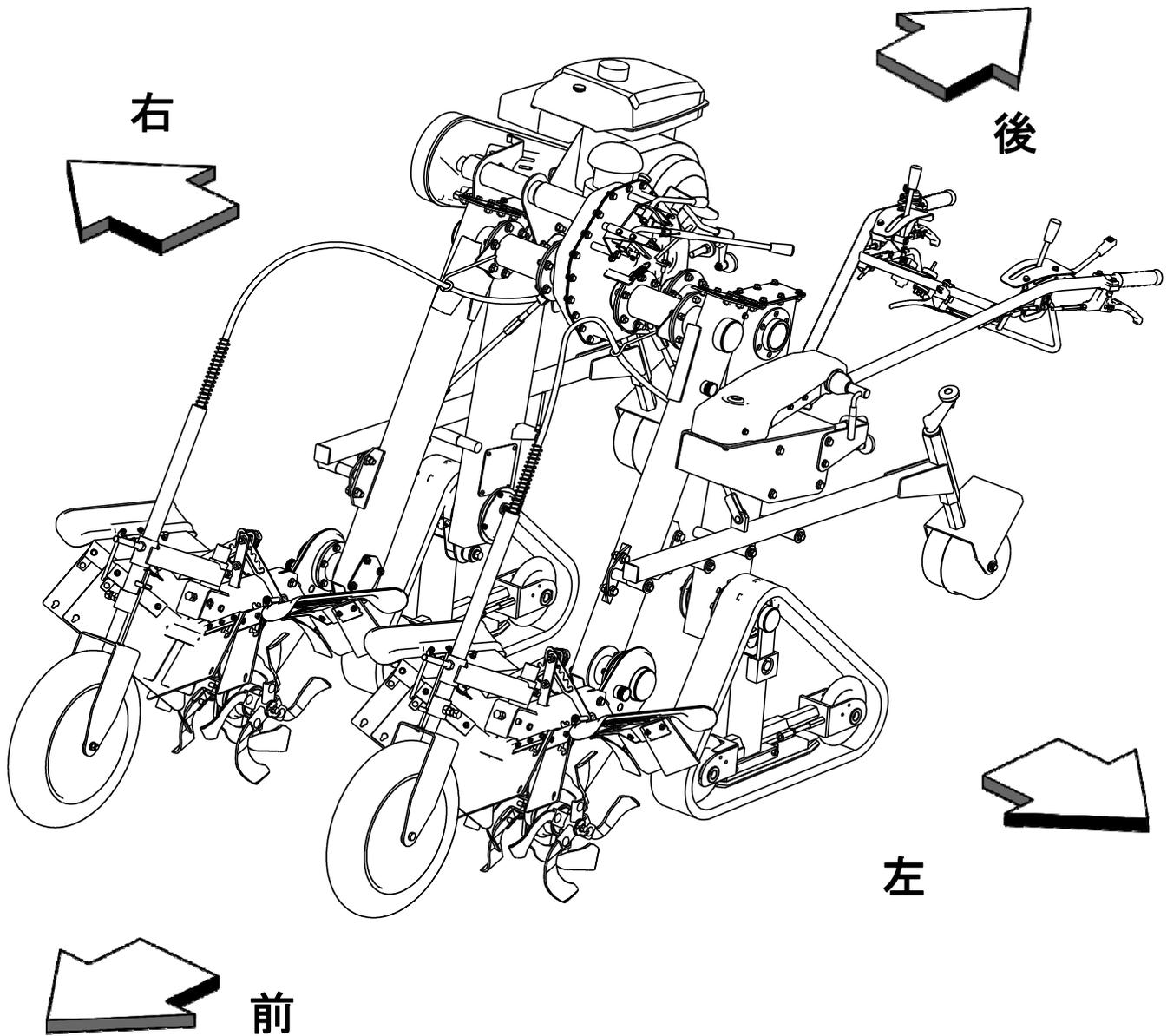
主要諸元	30
標準付属品	31
主な消耗部品一覧	31

## トラブルと処置



## 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。  
この「取扱説明書」で使用している〈前後、左右〉などの〈用語〉は図示のように決めています。





## 安全に作業するために

管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。



### 危険

以下の項目に該当する人は、機械を使用しないでください

1. 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
2. 本書及びラベルの内容が理解できない人
3. 視力不足などのため表示内容が読めない人
4. 16歳未満の人
5. ハンドルを操縦する体力に自信のない人

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



### 危険

作業に適した服装

1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁
2. だぶつきのない服装
3. ヘルメットなどの防護具の着用

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



### 危険

他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



### 危険

機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けしないでください。機械を改造しないでください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



### 注意

点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。定期の点検・整備は必ず受けてください。

〈守らないと〉

自己・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。



### 警告

ロータリ作業ではダッシュに注意

土が硬かったり石の多い場所ではロータリをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュする)ことがあります。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



### 危険

ハウス内での作業は換気を充分にする

排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。



## 安全に作業するために



### 警告

子供を近付けない  
子供には十分に注意し機械に近づかせず絶対に触れさせないでください。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



### 警告

作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む  
作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで理解してください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。



### 警告

作業機の脱着は平坦な場所で行う  
作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。  
夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。



### 警告

溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する  
ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を引き起こす恐れがあります。



### 注意

点検・整備は平坦な場所で行ってください  
点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所でタイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。



### 警告

点検・整備中はエンジン停止  
点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させ、エンジンやマフラーが十分に冷えた状態で行なってください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れや機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



### 警告

カバー類は必ず取り付ける  
点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



### 警告

下にもぐったり、足を入れない  
ロータリの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだりしないでください。

〈守らないと〉

ロータリが下がったとき傷害事故を負う恐れがあります。



## 安全に作業するために



### 危険

燃料補給・注油時は火気厳禁  
燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させてください。また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



### 警告

燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る  
燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



### 危険

排気ガスには十分に注意する  
閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。  
エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は十分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。



### 注意

マフラーの高温に注意  
運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。  
触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。



### 警告

マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く  
マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラクス、燃料が付着していないか作業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こす恐れがあります。



### 警告

坂道、アユミ板の上での変速禁止  
適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。



### 注意

エンジン始動時は周囲の安全を確認する  
エンジンを始動する際は主クラッチが「切」、主変速が「中立」になっていることを確認してください。  
リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。  
また、周囲に人を近付けしないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こす恐れがあります。



## 安全に作業するために



### 注意

発進、作業時は以下のことに注意してください  
車速の最低速で主クラッチの「入」はゆっくり行い、「切」は素早く操作  
できるよう習熟した上で使用してください。  
小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回を行わない  
でください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。



### 警告

移動する際はロータリを停止させる  
移動するときはロータリクラッチレバーを「切」にしてください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



### 警告

運搬には天井のない車を使用する  
運搬には荷台に天井のない車を使用してください。荷台の上ではエン  
ジンを切り、手で引き出ししてください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負う恐れがあります。



### 警告

積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に十分に耐え、滑り止めの  
ついたものを使用し確実に固定してください。  
荷台の高さが「1」に対しアユミ板の長さが「4以上」になるものを使用し  
てください。  
積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認  
し、最低速で上りは「前進」下りは「後進」で行い、途中で主クラッチを  
切ったり、変速操作を行わないでください。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こす恐れがあります。



### 注意

格納するとき  
機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷え  
てから掛けてください。  
火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないで  
ください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。



### 注意

夜間作業の禁止  
本機には夜間作業灯を装備しておりませんので夜間作業を行わない  
でください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

### 廃棄物の処理

廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入  
先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理  
してください。

〈守らないと〉

みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。



# 安全に作業するために

警告ラベルと貼り付け位置(ラベルの絵は原寸ではありません)

(1)品番 236100000451000

	<b>注意</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>取扱説明書をよく読んで、正しい取扱いをし、安全に作業すること。</li> <li>エンジンを始動する時は、正しいクラッチレバーを「切」に運ばず、エンジンを始動すること。</li> <li>積み降ろしは、周囲に人が近づかないこと。後進時は後方を確認すること。</li> <li>作業中は、人に近づけないこと。後進時は後方を確認すること。</li> <li>点検、整備をする時は必ずエンジンを停止すること。</li> </ul>	

(2)品番 231800000742000

	<b>警告</b>
<b>積み降ろしするとき</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブリッジはトラックの荷台の高さの4倍以上の長さのものを使うこと。</li> <li>上りは前進1速、下りは後進1速で行うこと。</li> <li>登坂、降坂時、サイドクラッチとスロットルの操作はしないこと。</li> </ul>	

(3)品番 231800000741000

(4)品番 011452372551000

(5)品番 008171870552000

	<b>警告</b>
<p>急斜面の移動は、転倒事故に繋がる恐れがある為、行わないこと。</p>	

	<b>警告</b>
<p>ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがあるので、回転部に近づかないこと。</p>	

	<b>警告</b>
<p>作業中は石などの飛散により、人にケガをさせるおそれがあるので、機械の前方や周辺に注意すること。</p>	

(6)品番 236100000452002

(7)品番 231800000739000

	<b>注意</b>
	<p>巻き込まれる恐れがあるので、ベルトカバーをはずしたままエンジンを始動しないこと。 点検、整備後は、必ずカバーを装着すること。</p>

	<b>警告</b>
<p>PTO軸に確実にカバーをした上で作業すること。</p>	

(8)品番 223300000313000

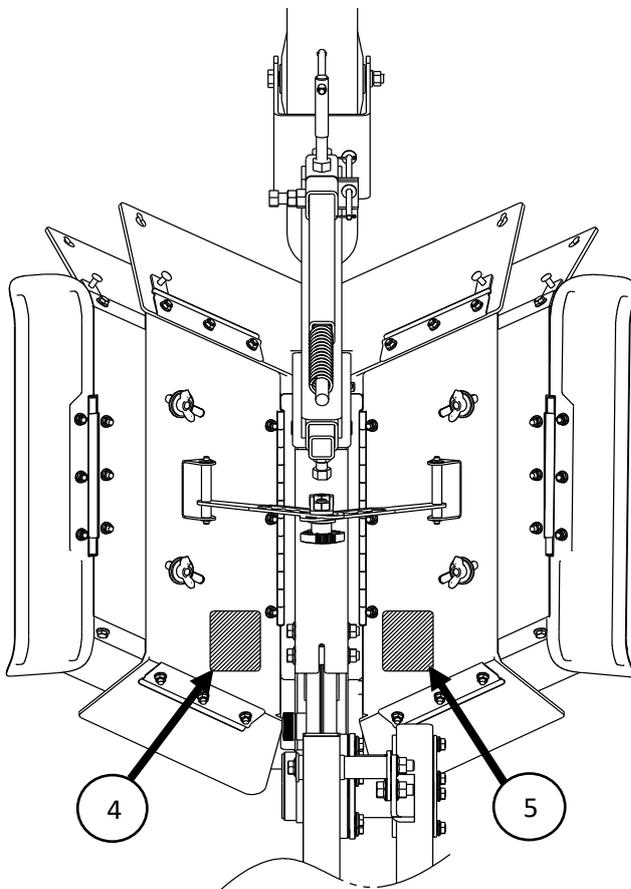
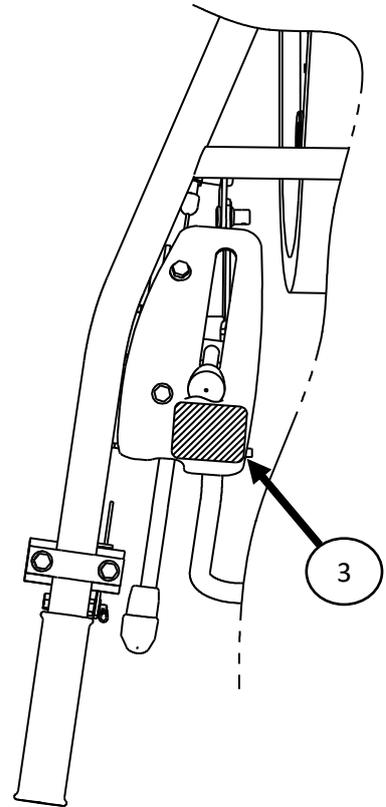
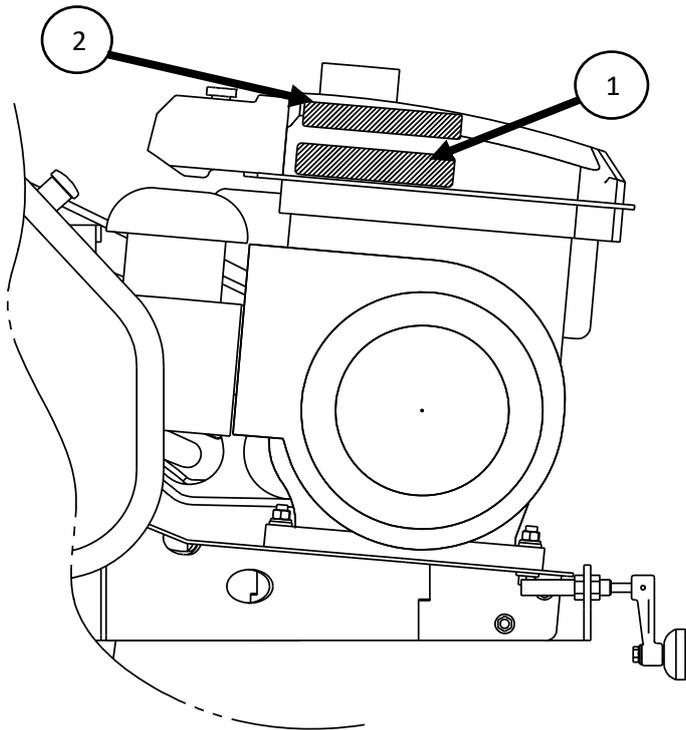
(9) 231800000746000

<b>注意</b>
<p>このカバーをはずしたままエンジン回さないで下さい。</p>

	<b>警告</b>
<b>機械を吊り上げる時</b>	
<p>破損防止の為、各種レバー、カバーを取り外して下さい。 傷防止の為、スリングが当たる部分に保護材をはさんで下さい。 上記の作業の後、ケーブルの巻き込みに注意しながら、下図 スリングの部分を吊り上げて下さい。</p>	

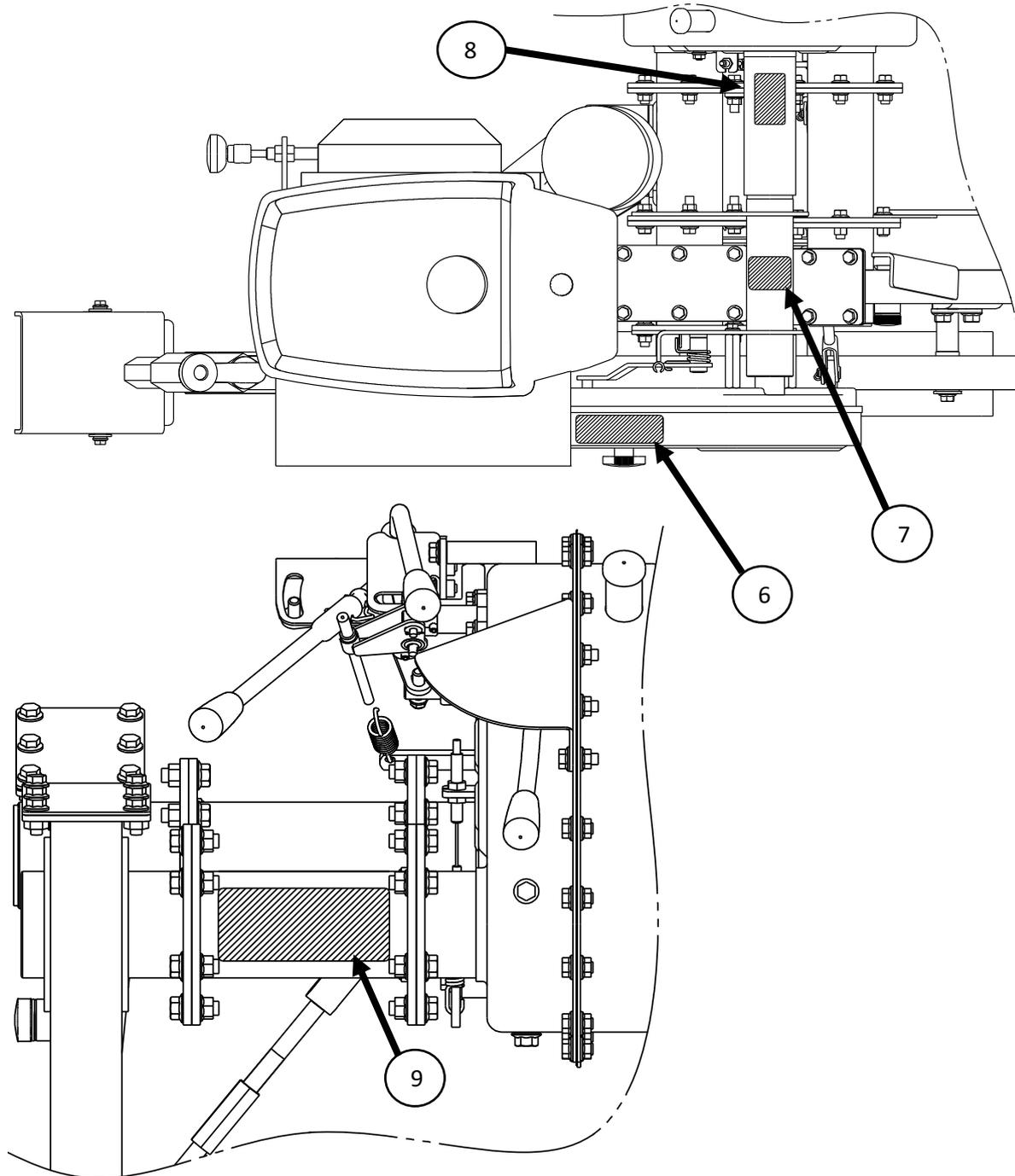


# 安全に作業するために





## 安全に作業するために



### 表示ラベルの手入れ

- ラベルは、いつでもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。  
もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

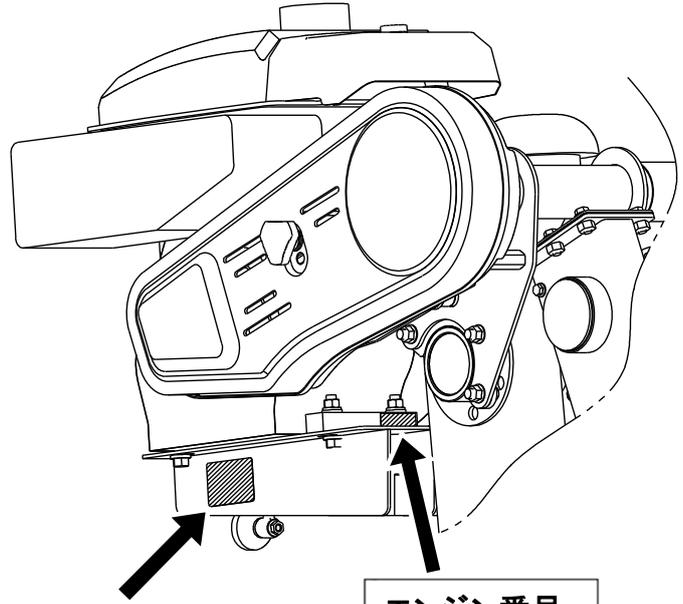
# サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

## ■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げの販売店又は直接当社にお気軽にご相談ください。

- その際
- (1) 型式名
  - (2) 車台番号(製造番号)
  - (3) エンジン番号
  - (4) 故障内容(できるだけ詳しく)
    - ・どのような作業をしていましたか
    - ・どのくらい使用しましたか
 (アール、又は時間)



車台番号

エンジン番号

**警告**

機械の改造はしないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故につながる恐れもあります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる使用を行った場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。

農業機械の種類		農用トラクター(歩行型)
型式名		KW110N
区分		
搭載	型式名	GB300LL
機関	連続定格出力	5.5kw(7.5PS)/1800rpm
製造番号		
製造元：関東農機株式会社		

## ■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

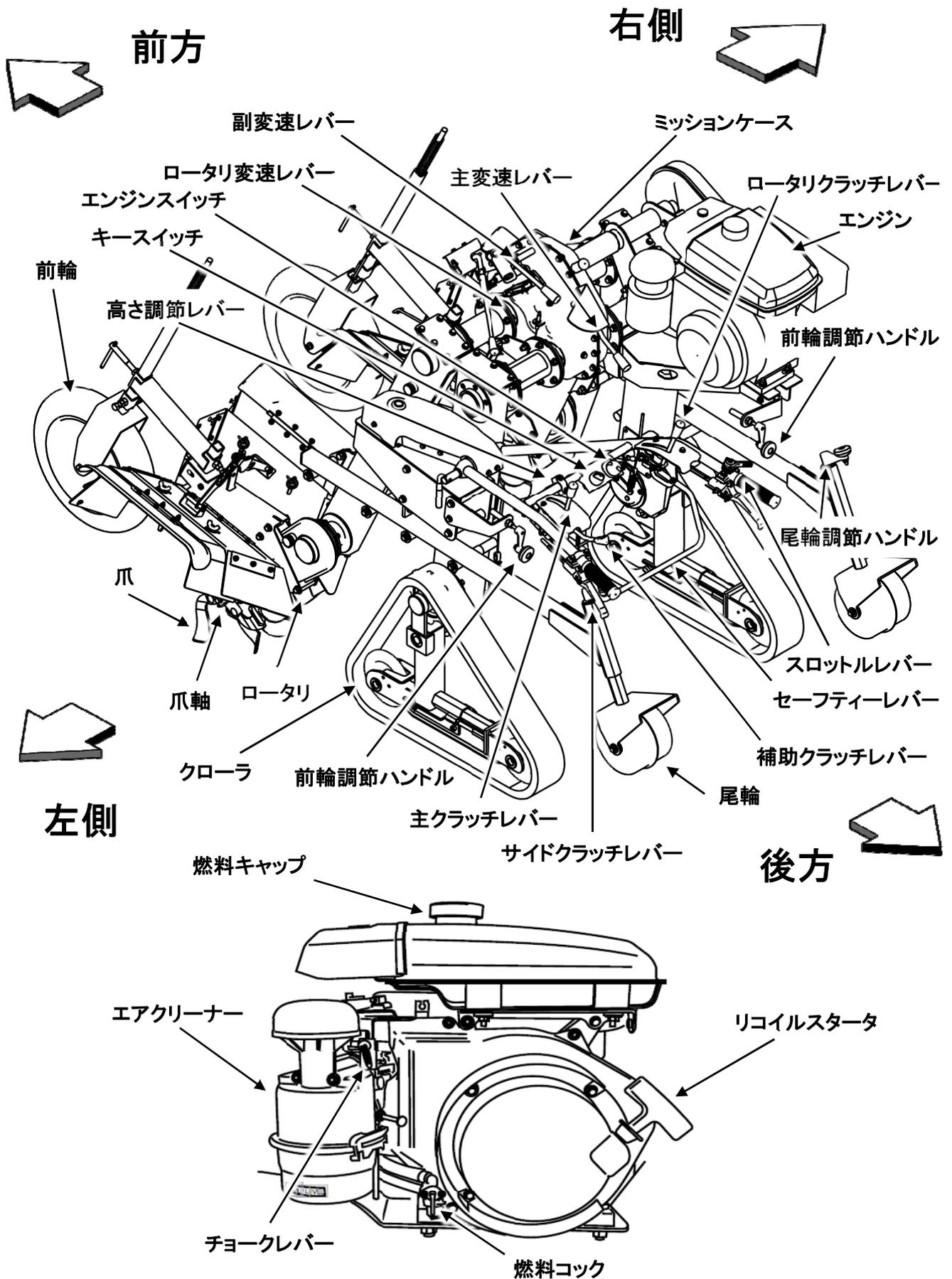
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

**警告**

トレーラ走行はできません。  
一般公道を移動するときは、自動車(トラック)に積んで運搬してください。

# 各部の名称と装置の取扱い

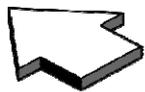
## ■機体方向説明と装置の名称



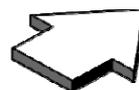
# 各部の名称と装置の取扱い

## ■機体方向説明と装置の名称

後方



左側



マフラ

ベルトカバー



右側

前方



# 各部の名称と装置の取扱い

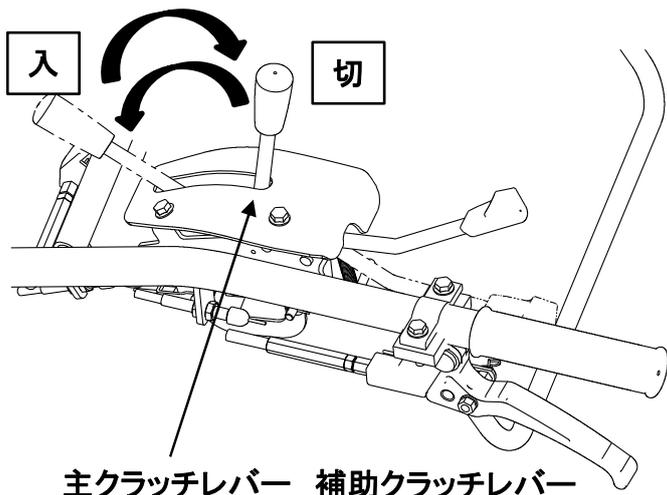
## 各部の名称とはたらき

### ■主クラッチレバー

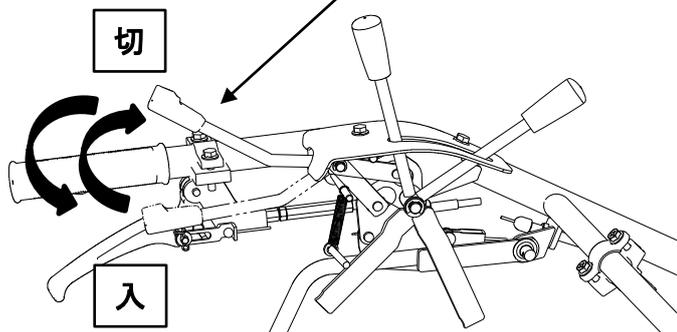


**注意**

- ※ 傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作して下さい。
- ※ 狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確め、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。



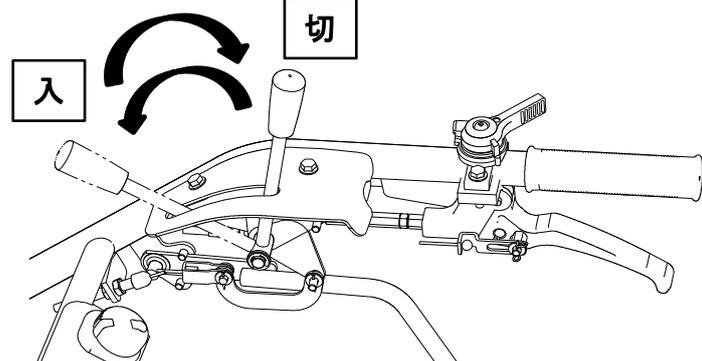
主クラッチレバー 補助クラッチレバー



エンジンからの動力を断続します。

1. 主クラッチレバーを「入」側に倒すとベルトが張り機械が動きます。補助クラッチレバーで親指操作も可能です。
2. 主クラッチレバーを「切」側に倒すと機械が止まります。補助クラッチレバーでも操作可能です。

### ■ロータリクラッチレバー



ロータリへの動力を断続します。

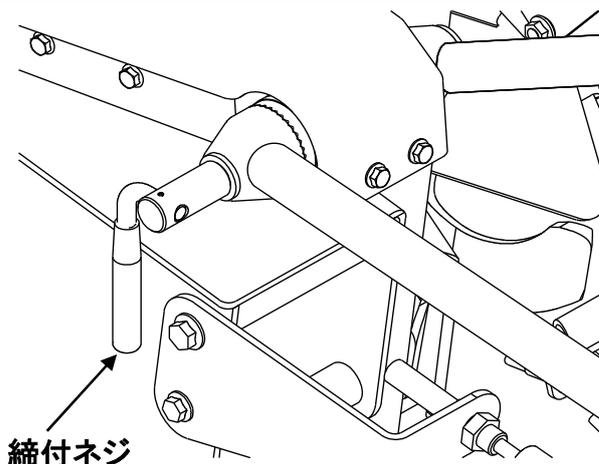
1. ロータリクラッチレバーを「入」側に倒すとクラッチが入ります。
2. ロータリクラッチレバーを「切」側に倒すとクラッチが切れます。

### ■締付ネジ(ハンドル上下)



**注意**

- ※ 平坦な場所に機械を安定させて、エンジンを必ず停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。



締付ネジ

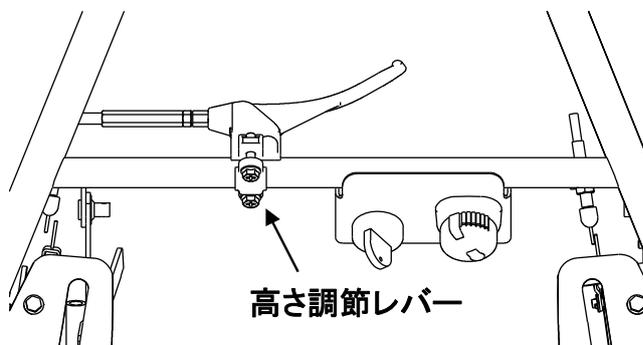
1. 締付ネジを緩め、ご自身の使いやすい高さに調節してください。
2. 適当な位置にきたら締付ネジを締めてください。その際、菊座が確実に噛んでいるかご確認ください。

### ■高さ調節レバー(ハンドル上下)



**注意**

- ※ 平坦な場所に機械を安定させて、エンジンを必ず停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。



高さ調節レバー

1. 高さ調節レバーを握るとハンドルの高さを上下2段階で調節できます。
2. 調節後、高さ調節のピンがプレートの穴に確実に入っているか確認してください。

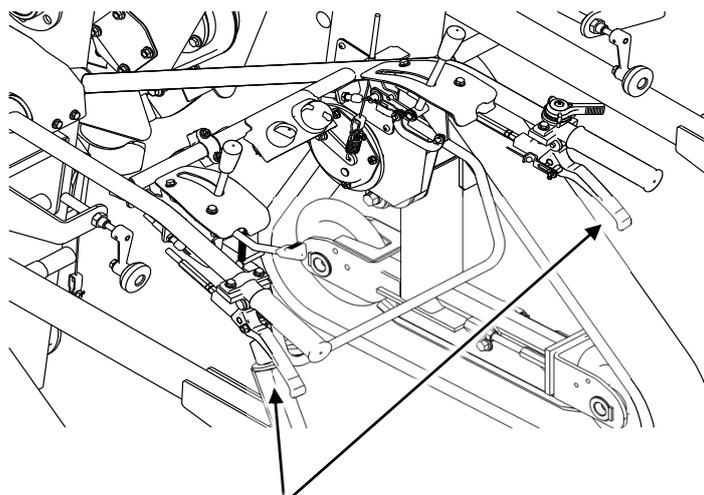
# 各部の名称と装置の取扱い

## ■サイドクラッチレバー



**注意**

- ※ 傾斜地ではサイドクラッチ操作に注意してください。左右同時に作動させると機体の制御が失われ傷害事故のおそれがあります。
- ※ トラックに積み込む際はサイドクラッチを使用しないでください。落下・傷害事故のおそれがあります。
- ※ サイドクラッチ操作はエンジンの回転を低速にしてから行ってください。特に高速の時は急旋回し傷害事故のおそれがあります。



サイドクラッチレバー

### 右旋回

右側のサイドクラッチを握ります。

### 左旋回

左側のサイドクラッチを握ります。

### 補足

- ※ サイドクラッチの構造上、土揚げ作業中にサイドクラッチが切りにくいことがあります。その際は、一度、主クラッチを切ってからサイドクラッチを握ってください。また進行方向の微調整については、サイドクラッチを使わず、ハンドルで操作していただいても問題ありません。サイドクラッチよりも細かな調整が可能です。

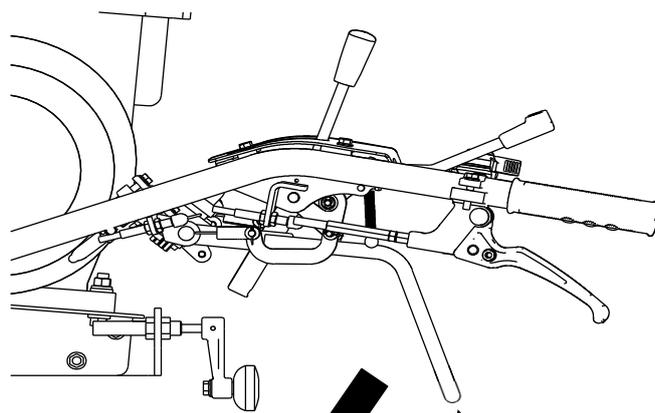
## ■セーフティーレバー



**注意**

- ※ セーフティーレバーを過信せず、安全作業を心がけてください。

主クラッチレバーが「入」側にある状態で、セーフティーレバーを押し下げると、主クラッチレバーが「切」側に倒れます。当機能は、バック移動時の挟まれ事故防止の為のものですが、バック時は背後や頭上に障害物がないか、十分に確認をしてください。



押し方向

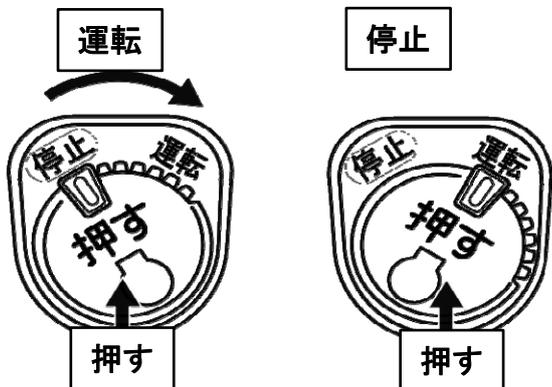
セーフティーレバー

# 各部の名称と装置の取扱い

## ■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に用います。

1. スイッチを押しながら[運転]位置に回すと始動が可能な状態になります。
2. スイッチを押すと左に回って[停止]位置に戻り、エンジンが停止します。



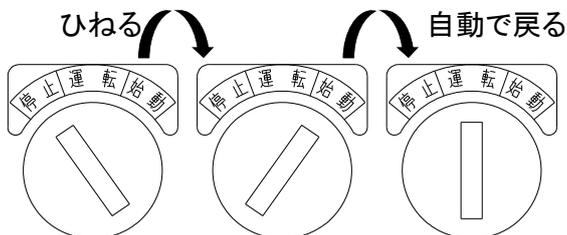
### 補足

- ※ 非常時にはエンジンスイッチを押してください。  
エンジンが停止します。

## ■キースイッチ

エンジンの始動・停止に用います。

1. エンジンスイッチを「運転」にした後、キースイッチを「始動」にひねってください。  
「始動」から「運転」へは手を離すと自動で戻ります。
2. キースイッチを「運転」から「停止」の位置にひねるとエンジンが停止します。



### 重要

- ・キースイッチ(セルモータ)を5秒まわしてもエンジンが始動しない時は、10秒休んで再始動してください。
- ・5秒以上まわし続けること、また短い休止時間で断続的にまわすことはバッテリーパックが発熱し内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- ・保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- ・バッテリーパックが高温になると、セルモータへの出力を停止します。その際はリコイルで始動してください。なお、バッテリーパック表面温度が外気温まで下がると出力停止は解除されます。
- ・低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため始動できない場合があります。その際は、リコイルで始動してください。
- ・作業機の負荷が入った状態のままセル始動をおこなうとセルモータが回転できない可能性があります。その状態のまま始動操作を続けるとバッテリー内部の保護機能が作動しバッテリー交換が必要となりますのでおやめください。
- ・使用前にエンジンの取扱説明書もお読みください。

## ■リコイルスタータ

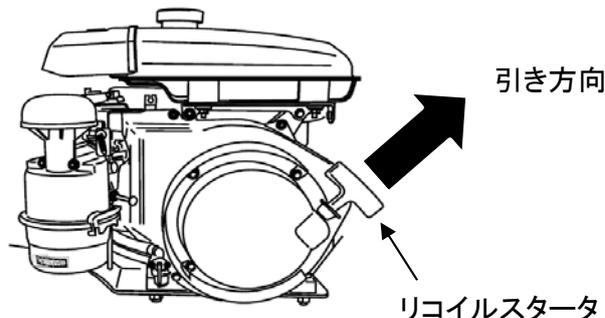


**注意**

- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

エンジンを始動します。

主クラッチレバーを[切]にし、エンジンスイッチとキースイッチを「運転」に合わせ、リコイルを引っ張ると始動します。



## ■主変速レバー(走行変速)



**注意**

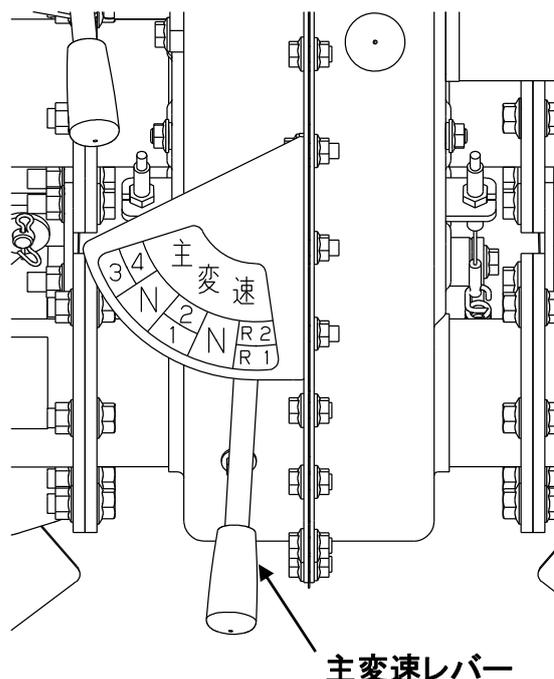
- ※ エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]にしてください。
- ※ 変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。
- ※ 走行中は変速しないでください。



**警告**

- ※ 後進時の巻き込まれ事故防止のため、改造しないでください。

※変速は案内板の表示位置に合わせシフトします。



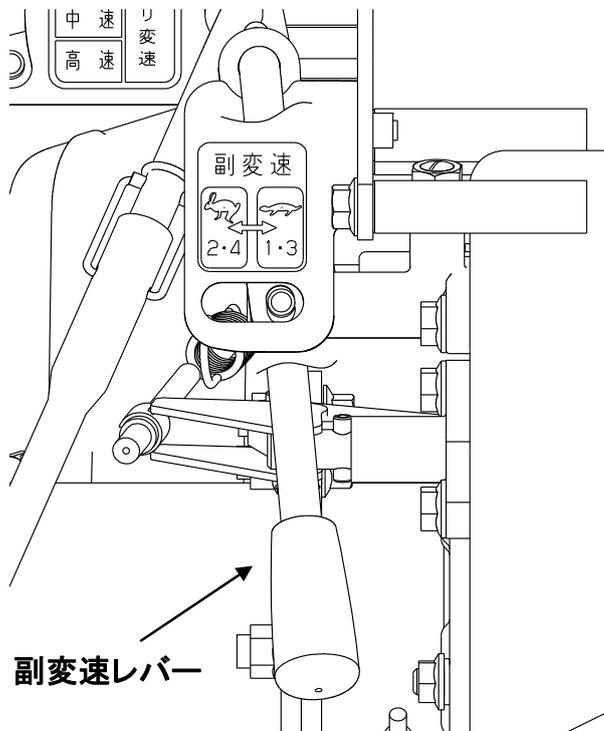
# 各部の名称と装置の取扱い

走行変速は副変速を入れ前進4段、後進2段の計6段あります。

変速は主変速と副変速の組み合わせでおこないます。副変速レバーの位置を確認しながら、主変速レバーを操作してください。

## ■副変速レバー(走行変速)

※変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。



副変速レバー

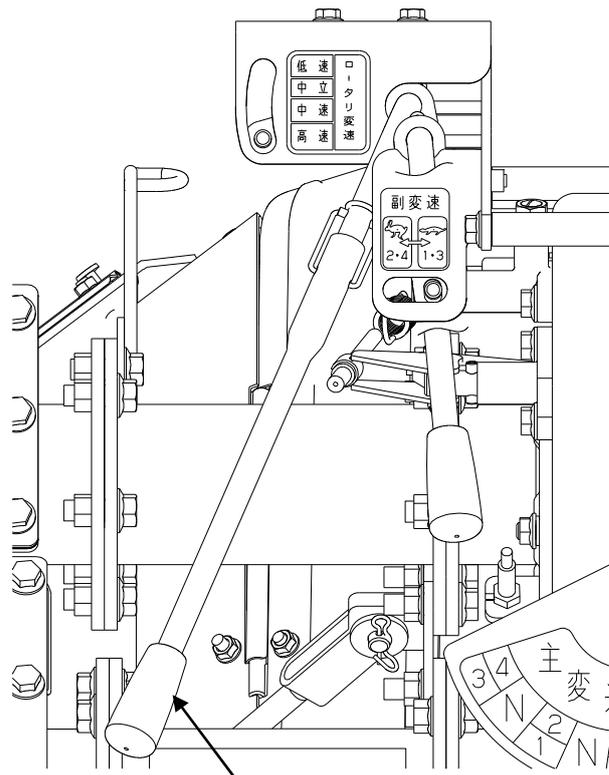
主変速レバーの位置を確認しながら、副変速レバーを操作して下さい。

## ■ロータリ変速レバー

	<b>注意</b>
<p>※ エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]にしてください。</p> <p>※ 変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。</p> <p>※ 走行中は変速しないでください。</p>	

	<b>警告</b>
<p>※ 後進時の巻き込まれ事故防止のため、改造しないでください。</p> <p>※変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。</p>	

- ロータリは高速、中速、低速の計3段です。
- 回転方向の切り替えはありません。ロータリの回転方向は逆転(前進時のクローラ上部プロケットと逆の回転方向)です。

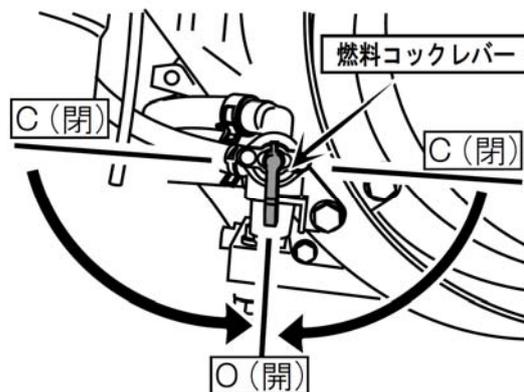


ロータリ変速レバー

## ■燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへの燃料の[供給]・[停止]をします。エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めます。

- [c](閉)・・・燃料停止
- [o](開)・・・燃料供給



## 重要

※ コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

# 各部の名称と装置の取扱い

## ■燃料キャップ

 <b>警告</b>
<p>※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。</p> <p>※ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。</p> <p>※ 燃料がこぼれたときはきれいにふきとってください。</p> <p>※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれなようにしっかり締めてください。</p> <p>※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。</p>

自動車用レギュラーガソリンを使用します。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	5.4L

## ■重要

- ※ 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

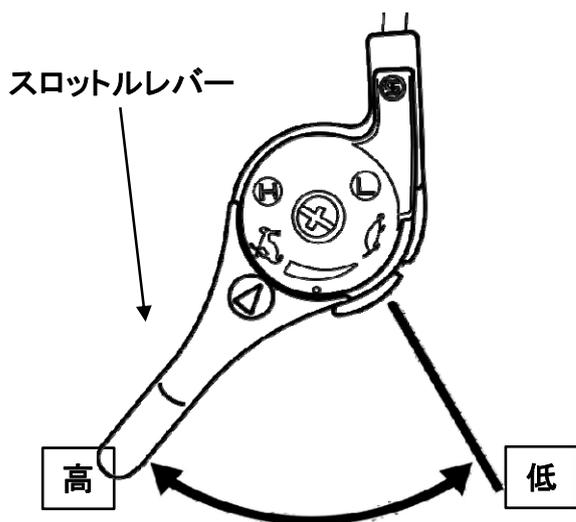
## ■マフラ

 <b>注意</b>
<p>※ マフラに手をふれないでください。ヤケドをするおそれがあります。</p>

## ■スロットルレバー

エンジン回転数を操作します。

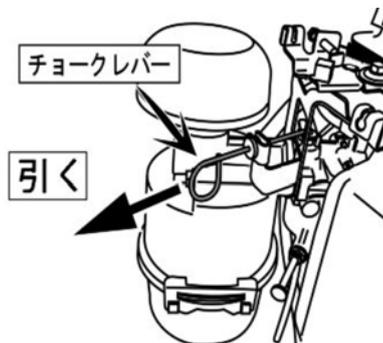
1. 低(亀マーク)……エンジン回転数低速
2. 高(うさぎマーク)……エンジン回転数高速



## ■チョークレバー

エンジンがかかりにくい時に使用します。チョークレバーを引くとチョークが閉じます。引いたチョークレバーを押し込むとチョークが開きます。

1. 始動時→チョークレバーを引き、チョークを閉じます。
2. 始動後→引いたチョークレバーを押し込みチョークを開きます。



# 作業前の点検



**注意**

- ※ 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
- ※ 点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行なってください。

## 調子よく作業するために

(詳細は18ページの[管理機の簡単な手入れと処置]の項を参照)



**警告**

- ※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- ※ 燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
- ※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
- ※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

## 重要

- ※ 工場出荷時に各種オイル、グリースは注油しておりますが、使用前にご確認ください。

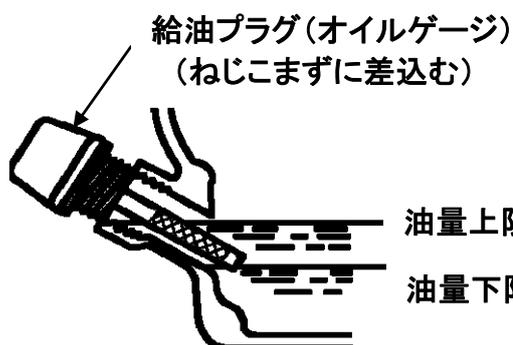
給油箇所	種類	容量
エンジン(GB300LL)	エンジンオイル	1.0L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	5.4L
ミッションケース	ミッションオイル #80又は#90	2.8L
ロータリケース1	ミッションオイル #80又は#90	1.0L
ロータリケース2	ミッションオイル #80又は#90	0.4L
ソウコウケース、クローラ、耕うん軸等	グリス	適量
クラッチワイヤー、ケーブル(タカサ)等	エンジンオイル	適量

※エンジンオイル……………10W-30

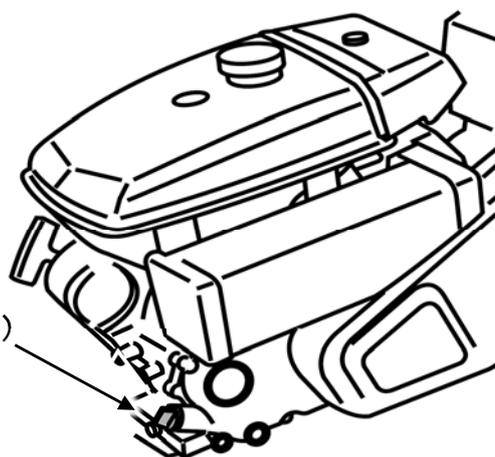
※ミッションオイル……………#80又は#90

### ◆エンジンオイル

- エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
- 不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。(ガソリンエンジン用)
- ※ オイルゲージはねじ込まずに使用します。



給油口  
(エンジンオイル点検)



# 作業前の点検

## ◆ミッションオイル

- ミッションケース側面に設けてある給油口より、ミッションオイルを規定量給油してください。
- 機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
- 不足している場合にはミッションオイルを入れます。
- ロータリケースには検油口が無いので、適宜追加してください。

## ◆エアクリーナー

- エアクリーナーにオイルを入れます。(エンジンオイルSC級以上)
- エンジンオイルをOIL ↑ LEVELまで入れてください。
- エアクリーナーエレメントにゴミが付着していないか点検します。

## ◆燃料

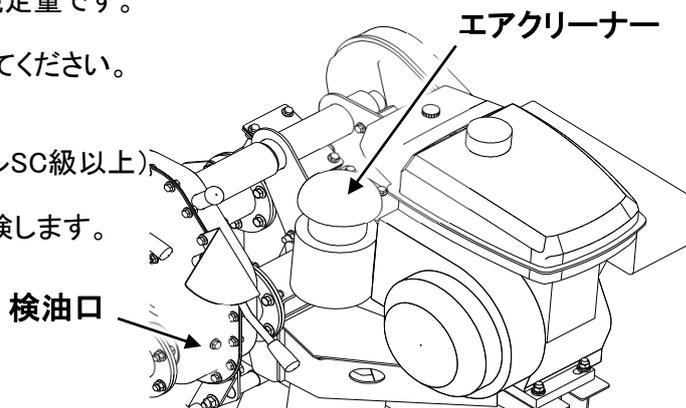
- ロータリ爪接地状態で燃料を入れてください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量・・・約5.4L(赤色ゲージ以下にします)

## ◆ケーブル(主クラッチ、ロータリクラッチ、サイドクラッチ、ブレーキ、ゼンリンチョウセツ、ハンドルジョウゲ)

- アウターケーブルの端からエンジンオイルを注油します。

## ◆その他

- エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の破損及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。



## 安全に作業するために

### ◆主クラッチレバー

- クラッチの[入]・[切]が確実にできるか点検します。
- 不良の場合は調整・注油します。

### ◆主変速レバー、副変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。
- 不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

### ◆ロータリ変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。
- 不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

### ◆サイドクラッチレバー

- 握った際に、確実に旋回できるか点検します。

### ◆セーフティーレバー

- セーフティーレバーを押すことで、主クラッチが切れるか点検します。

### ◆電気配線

- 被覆が溶けたり破れたりしていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

### ◆エンジン周辺部

- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラズが付着がないか点検します。

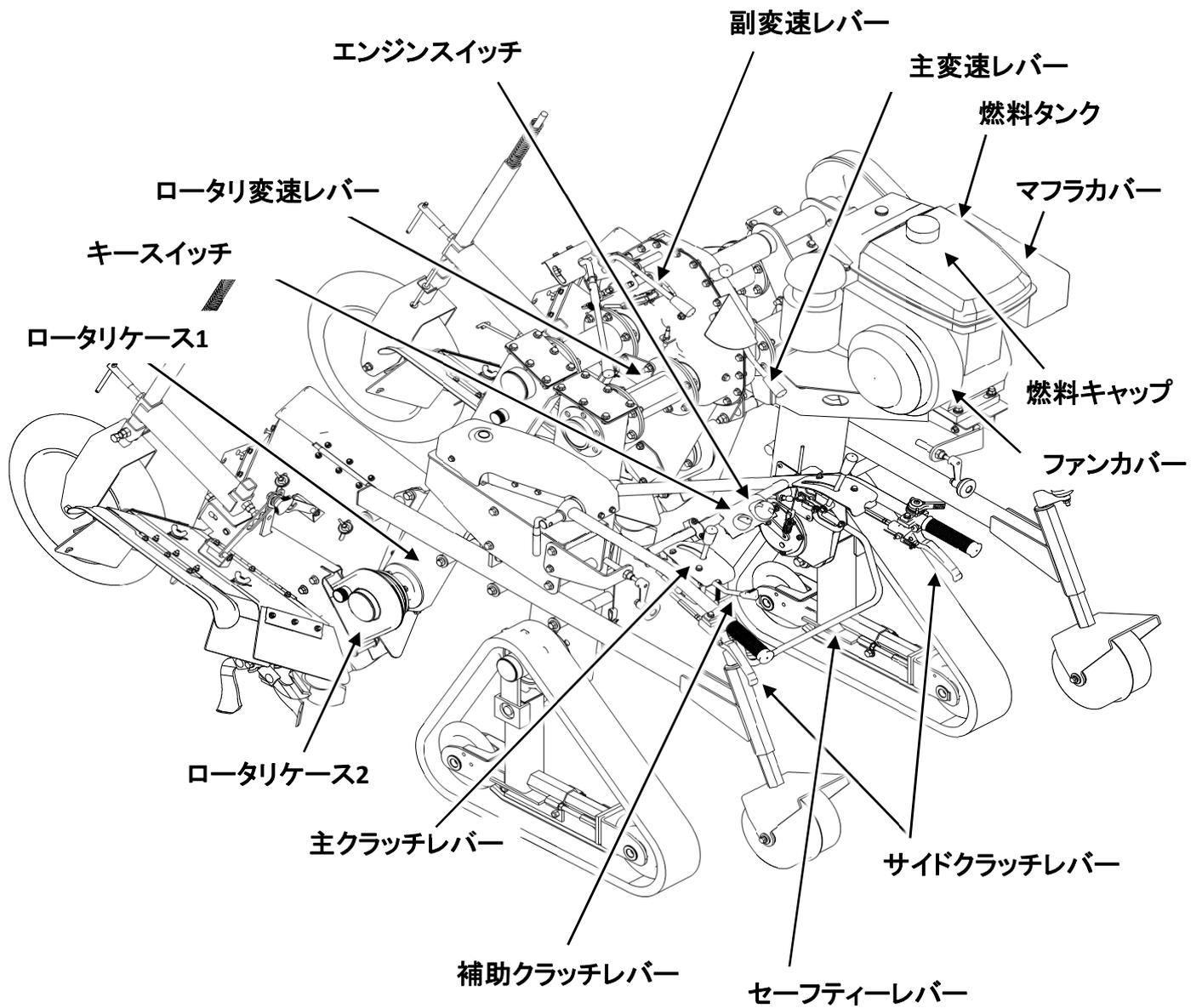
### ◆ガソリンもれ

- タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。もれがある場合は、販売店に修理点検を依頼して使用を控えて下さい。

### ◆エンジンスイッチ、キースイッチ

- エンジンの始動、停止が確実にできるか確認します。エンジンが停止しない場合無理に停止しようとせずご購入になった販売店までご連絡ください。

# 作業前の点検



# 運転のしかた

## 新車時の扱いかた

### ■ならし運転(最初の10時間まで)

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

## エンジンの始動と停止のしかた

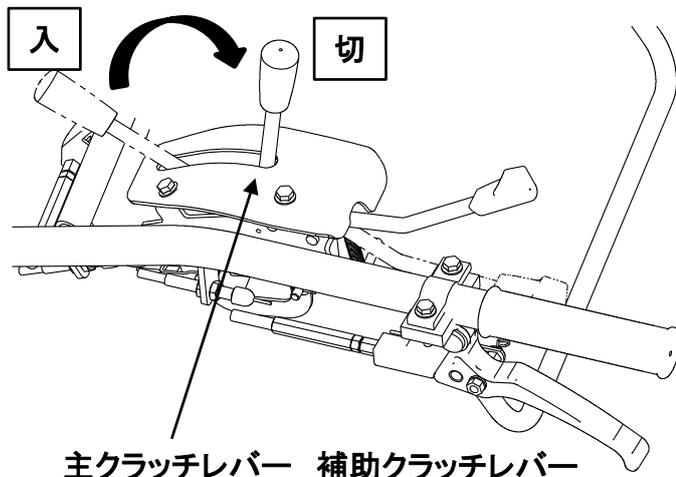
### ■始動のしかた



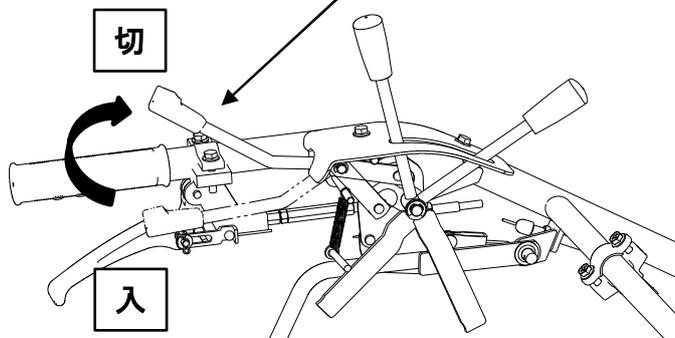
**注意**

- ※ マフラの排気口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ エンジンの運転中は、危険ですからマフラやそのほかの操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ 夜間作業はしないでください。
- ※ エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず「切」にしてください。

1. 主クラッチレバー(補助クラッチレバー)を「切」にします。



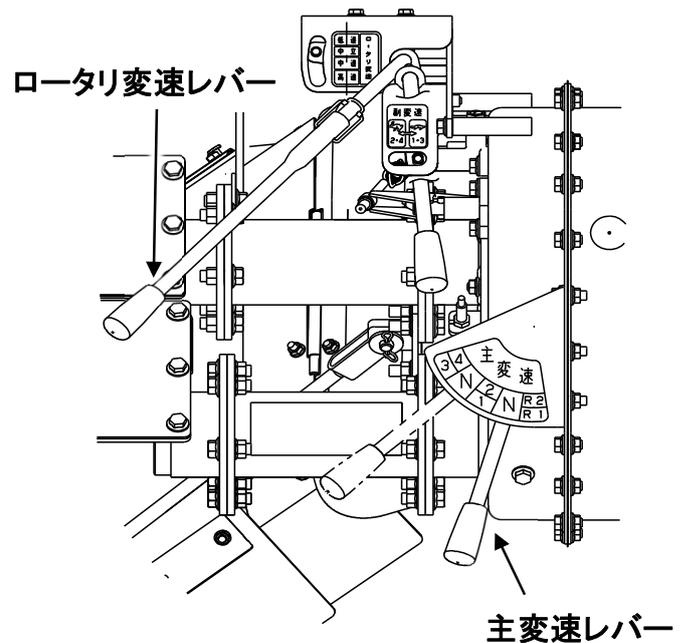
主クラッチレバー 補助クラッチレバー



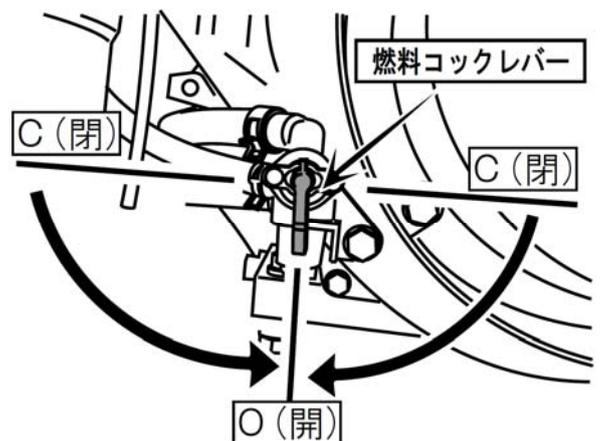
### ■補足

- ※ 主クラッチレバー(補助クラッチレバー)が「入」では始動ケンセイ装置が作動してエンジンが始動しません。

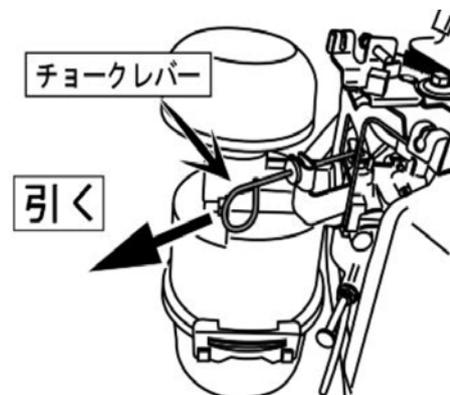
2. 主変速レバー・ロータリ変速レバーを[中立]にします。



3. 燃料コックを「O」(開)にします。

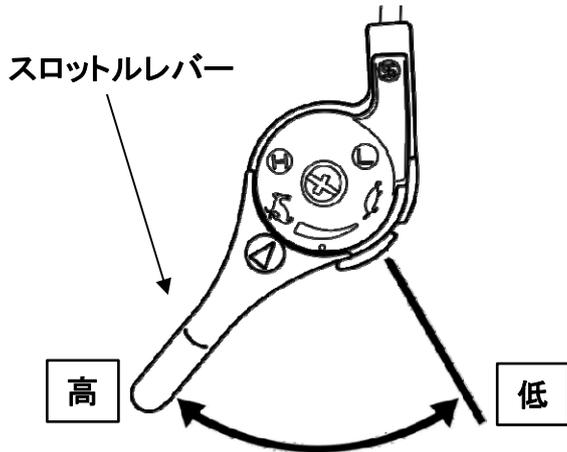


4. チョークレバーを引き、「閉」位置に切り替えます。始動後、チョークレバーを元の位置に押し込み、「開」位置にします。

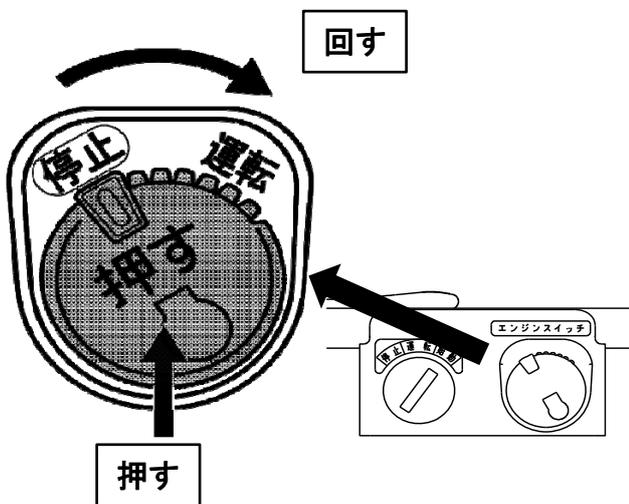


# 運転のしかた

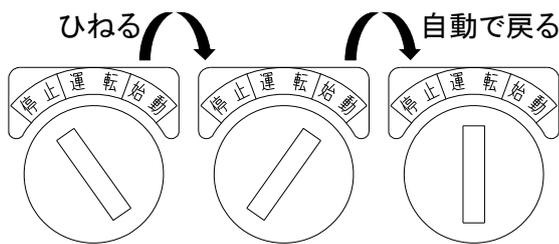
5. スロットルレバーを[高]にします。



6. エンジンスイッチを押しながら[運転]位置まで回し



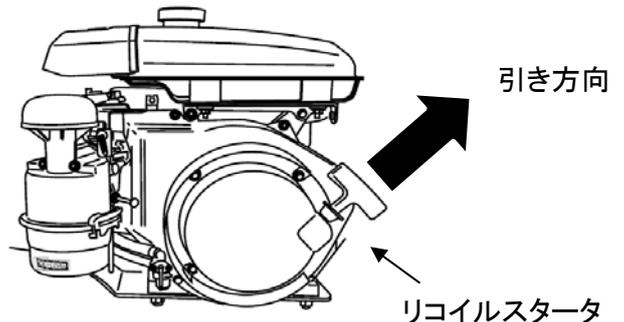
7. キースイッチを「始動」位置までひねり、エンジンがかかり次第手を離します。



- ・低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため始動できない場合があります。その際は、リコイルで始動してください。
- ・作業機の負荷が入った状態のままセル始動をおこなうとセルモータが回転できない可能性があります。その状態のまま始動操作を続けるとバッテリー内部の保護機能が作動し**バッテリー交換が必要**となりますのでおやめください。
- ・使用前にエンジンの取扱説明書もお読みください。

※リコイルで始動するとき

リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。



## 重要

- ・キースイッチが「運転」位置にないと、エンジンはかかりません。
- ・運転中はリコイルスタータを引かないでください。

8. チョークレバーを[閉]の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[開]の位置に戻します。

9. 2～3分暖機運転をしてから、作業を始めて下さい。

## 重要

- ・キースイッチ(セルモータ)を5秒まわしてもエンジンが始動しない時は、10秒休んで再始動してください。
- ・5秒以上まわし続けること、また短い休止時間で断続的にまわすことはバッテリーパックが発熱し内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- ・保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため**交換が必要**です。
- ・バッテリーパックが高温になると、セルモータへの出力を停止します。その際はリコイルで始動してください。なお、バッテリーパック表面温度が外気温まで下がると出力停止は解除されます。

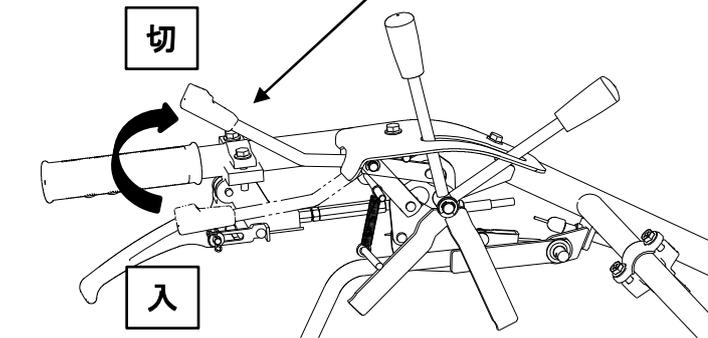
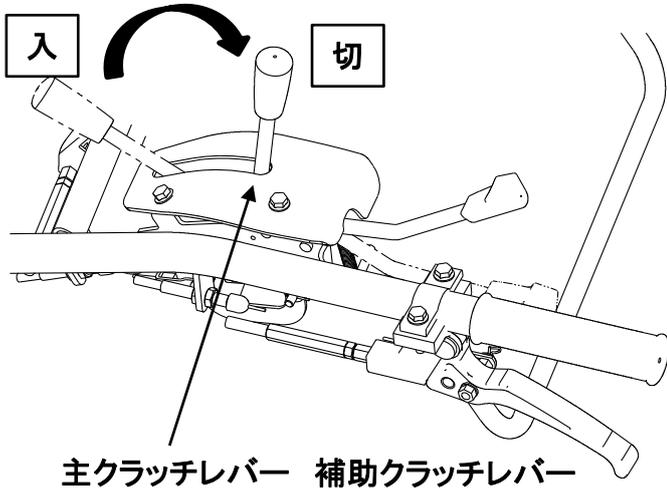
# 運転のしかた

## ■停止のしかた

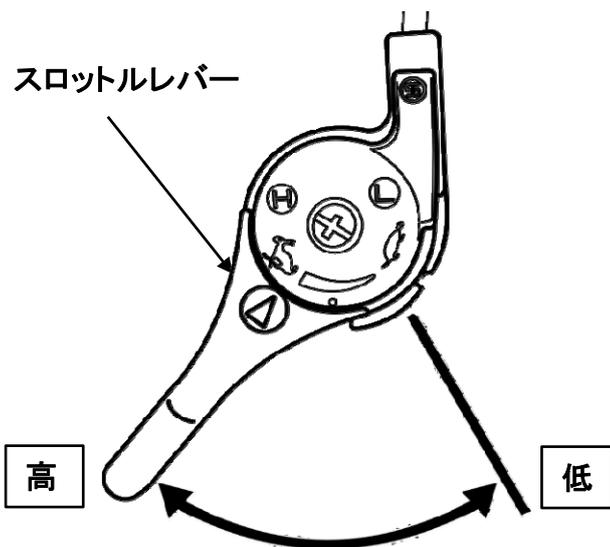

警告

※ 停止後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

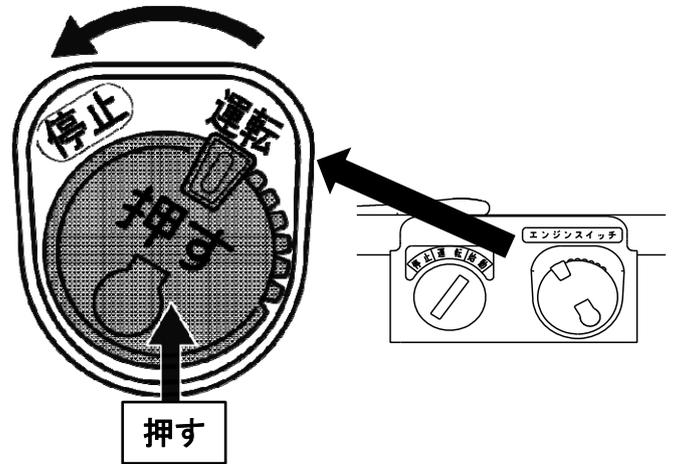
1. 主クラッチレバー(補助クラッチレバー)を[切]にします。



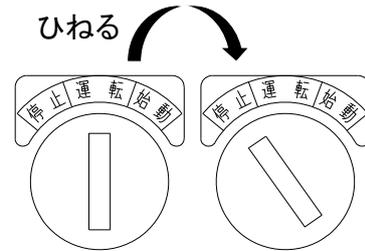
2. スロットルレバーを[低]にします。



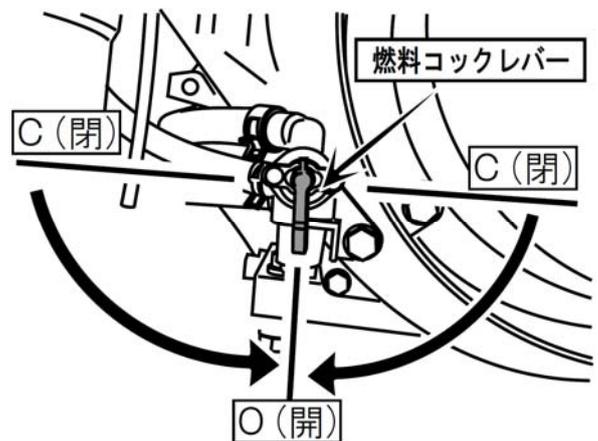
- 主変速レバー、ロータリ変速レバーを[中立]にします。
- エンジンスイッチを押すと左に回って[停止]位置に戻り、エンジンが停止します。



5. キースイッチを「停止」側にひねります。



6. 燃料コックを[C] (閉) にします。



### 重要

- ※ コックを開いたままの状態での保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

# 運転のしかた

## 発進のしかた



**警告**

- ※ 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故の恐れがあります。
- ※ 傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首がはさまれる恐れがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- ※ 狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上部などまわりの安全を確かめてゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

1. 主クラッチレバーが[切]の位置にあることを確認した後、変速レバーを必要な変速位置にします。
2. 主クラッチレバーを[入]にすると発進します。
3. スロットルレバーを操作して速度を調節します。

### 重要

- ※ 爪軸の向きは下記の図のように取り付けて下さい。誤った方向で作業を行うと機体を破損する恐れがあります。



### ■耕深の設定



**警告**

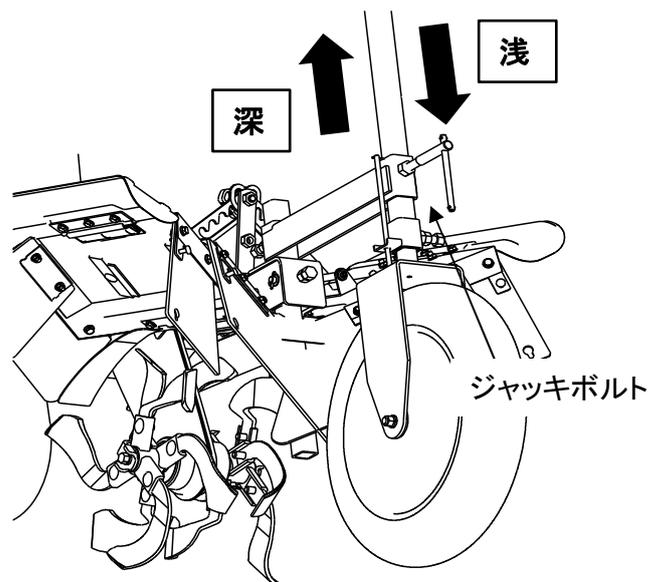
- ※ 調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故の恐れがあります。
- ※ 耕深を深くすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながる恐れがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。

#### 大きく調整するとき

1. ジャッキボルトをゆるめ、前輪の位置を調節できるようにします。
2. 耕深を浅くする場合は前輪を下げ、深くしたい場合は前輪を上げます。

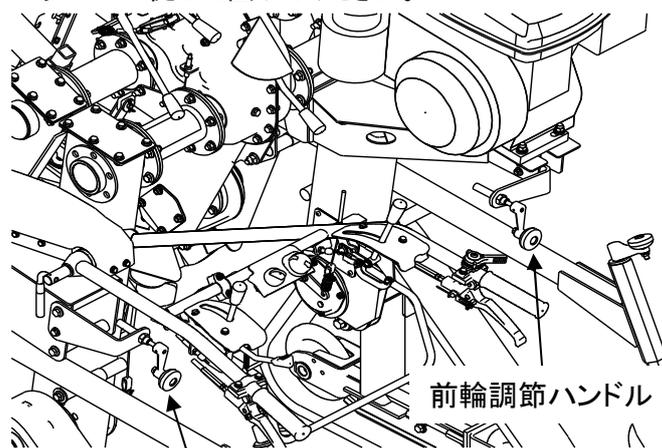
### 重要

- ※ 前輪は、基本的に左右の片方のみを接地させます。接地している方の前輪で耕深を調整します。

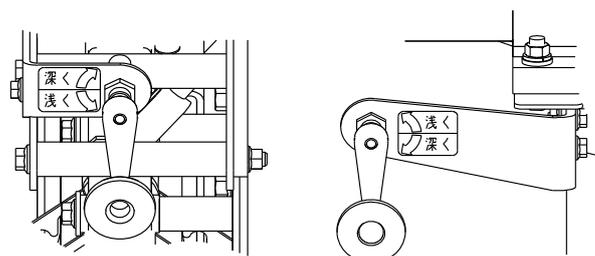


#### 微調整するとき

1. ハンドルとエンジン下にある前輪調節ハンドルをラベルに従って回してください。



前輪調節ハンドル



左側

右側

### 重要

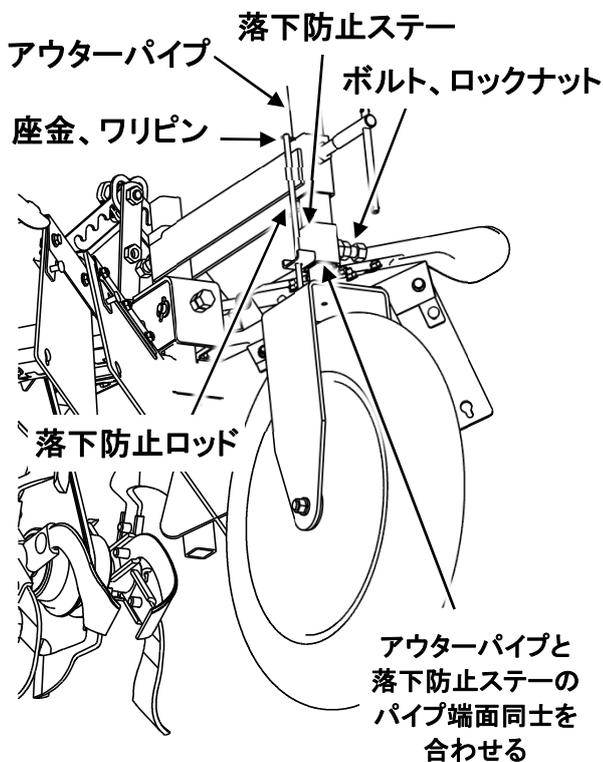
- ※ 前輪の落下を防止するため、前輪を下げていく(耕深を浅くする)と前輪が落下する前にハンドルが回らなくなります。また、前輪を上げていき(耕深を深くし)、調整限度に達するとハンドルが回らなくなります。上記の「ハンドルが回らない」状態で無理にハンドルを回し続けると、前輪調節ケーブルのインナー側が切れ、交換が必要となります。前輪調節ハンドルの動きが悪い場合は前輪調節

# 運転のしかた

ケーブルのハンドル側アウターエンドからエンジンオイルを適量注油して下さい。

## ■落下防止ステーの取り付け方

1. 前輪調節ハンドルを左(耕深を浅くする方向)へ回し、前輪をアウターパイプから外して下さい。
2. アウターパイプに落下防止ステーを差し込み、下図のように、パイプ端面同士を合わせ、ボルトとロックナットで固定します。
3. 外した前輪をアウターパイプに差し込み、前輪調節ハンドルを右(耕深を深くする方向)へ回して、アウターパイプ側のネジボウと、前輪のネジボスを噛ませます。
4. 落下防止ロッドを、落下防止ステーの長穴部へ通し落下防止ロッド先端の穴にワリピンが入るようになるまで、前輪調節ハンドルを右(耕深を深くする方向)へ回します。
5. 落下防止ロッドに座金を通し、前述の穴にワリピンを差し込み組付け終了です。



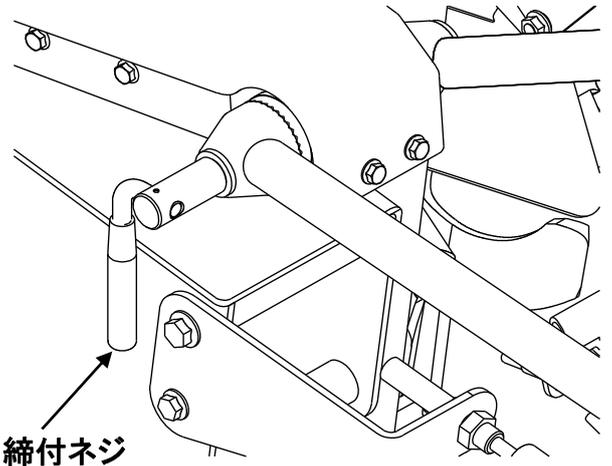
## ■ハンドル高さの調節



**注意**

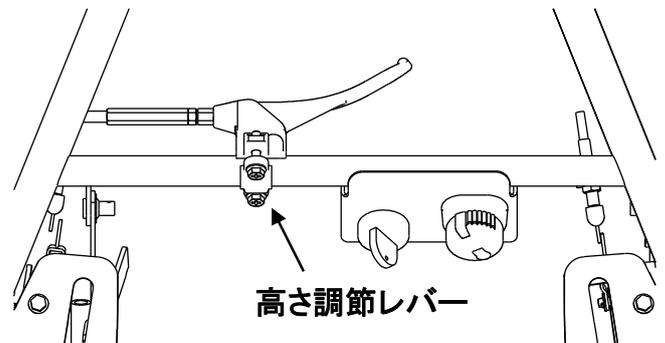
- ※ 平坦な場所に安定させて、主変速レバー、ロータリ変速レバーを中立にして、主クラッチレバーを[切]にして行なって下さい。傷害事故の恐れがあります。

## ■締付ネジ(ハンドル上下)で調整する時



1. 締付ネジを緩め、ご自身の使いやすい高さに調節して下さい。
2. 適当な位置にきたら締付ネジを締めてください。その際、菊座が確実に噛んでいるかご確認ください。

## ■高さ調節レバー(ハンドル上下)で調整する時



1. 高さ調節レバーを握るとハンドルの高さを上下2段階で調節できます。
2. 調節後、高さ調節のピンがプレートに確実に入っているか確認して下さい。

# 作業のしかた

## 上手な作業のしかた

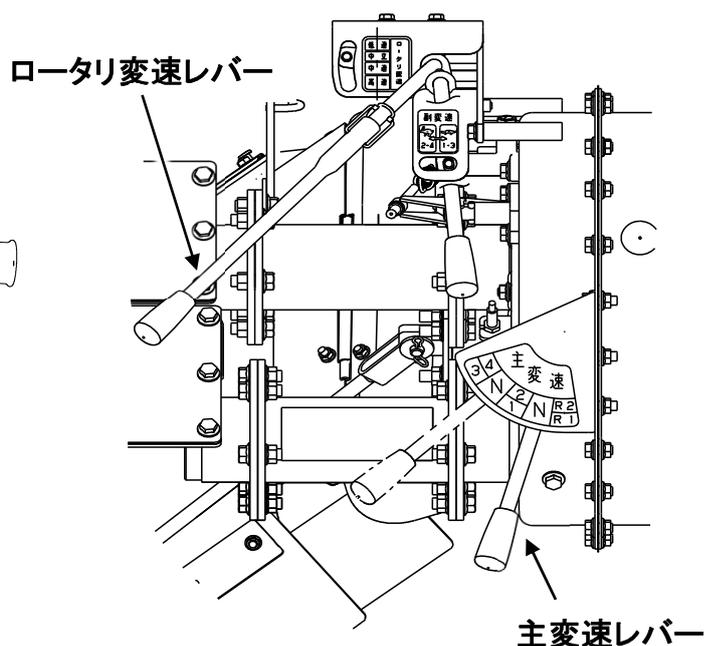
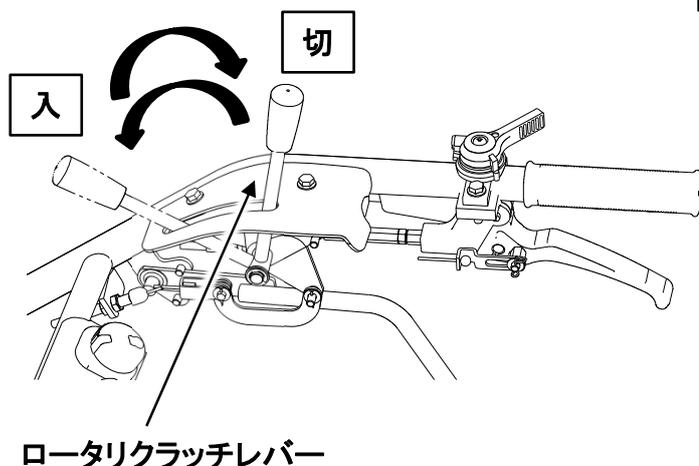
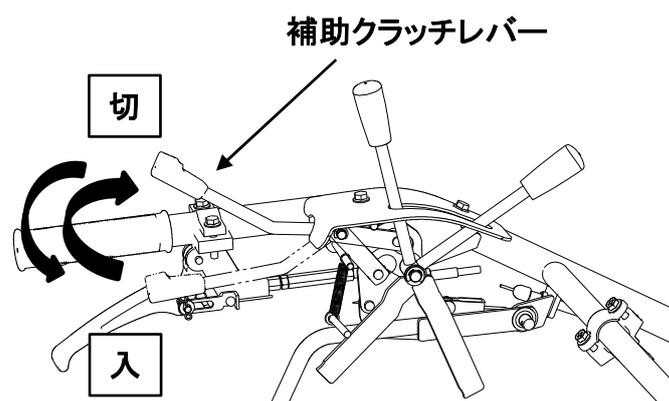
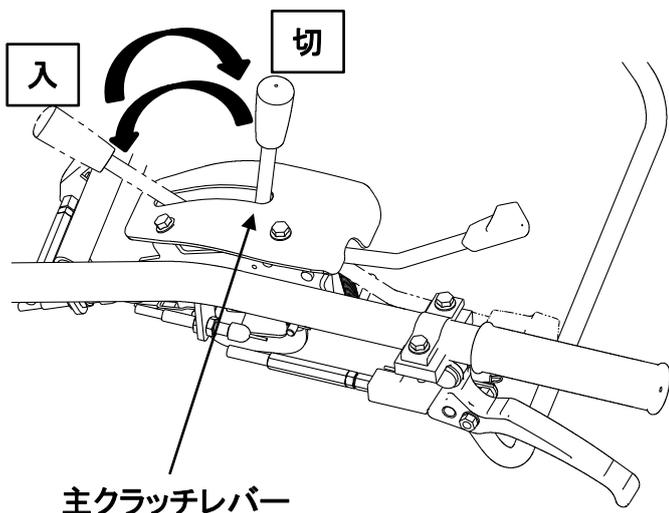
下記操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

### ■土揚げ作業手順(作業場所までの移動は運転のしかたを参照してください)

1. 主クラッチレバー・ロータリクラッチレバーが[切]になっていることを確認します。
2. 主変速レバー、副変速レバーを使用し、車速を選びます。  
2速作業が基本ですが、土が硬かったり、粘土質の場合は1速に落としてください。  
砂地等の軽い土質の場合は、3速作業も可能です。エンジン回転、土の揚がり具合を見ながら、丁度良い車速を見つけてください。
3. ロータリ変速レバーを使用し、ロータリの回転数を選びます。低速からスタートして土の揚がり具合を見てください。  
土の揚がり具合に不足を感じたら、中速、高速と回転を上げていきます。
4. スロットルレバーを操作してエンジンの回転数を上げます。
5. ロータリクラッチレバーを「入」側に倒します。
6. 主クラッチレバーを「入」側に倒すとクローラとロータリが動き、作業が始まります。
7. 前述の通り、作業中のエンジン回転と土の揚がり具合を見ながら、主変速レバー、副変速レバー、ロータリ変速レバーを使用し、丁度よい車速、ロータリ回転数を見つけてください。
8. 変速する時やロータリの[入][切]操作を行うときは必ず主クラッチレバーを[切]にしてから行なってください。

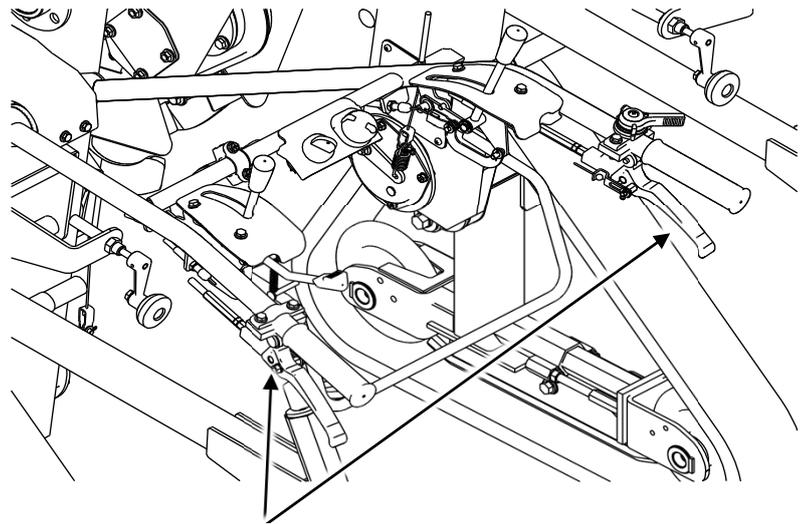
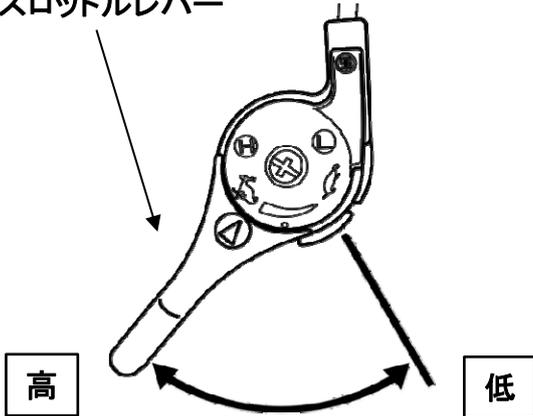
### ■旋回手順

1. 主クラッチレバー・ロータリクラッチレバーを[切]にしてください。
2. スロットルレバーを[低速]にしてください。
3. ハンドルを押し下げ、回りたい側のサイドクラッチを握り、主クラッチレバーを「入」側に倒してゆっくり旋回します。



# 作業のしかた

スロットルレバー



サイドクラッチレバー

## ■ 耕深の調整(前輪の使い方)

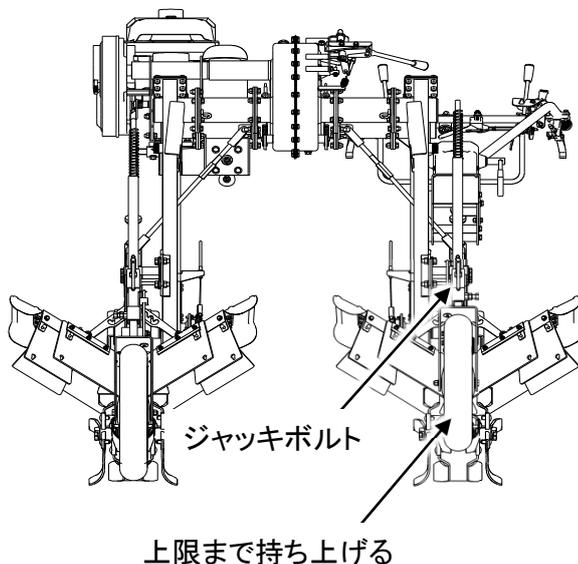
当機は、左右どちらか片方の前輪を接地させ、その片方のみで耕深を調整することで上手に扱うことができます。左右の溝の深さに違いが無い場合は、ハンドル側から見て左側の前輪を、ジャッキボルトを緩め、上限まで持ち上げてください。

左右の溝の深さに違いがある場合は、溝が深い方にある前輪を、ジャッキボルトを緩め、上限まで持ち上げてください。

前述の、「片方の前輪のみが接地している状態」ができたなら、作業を開始します。

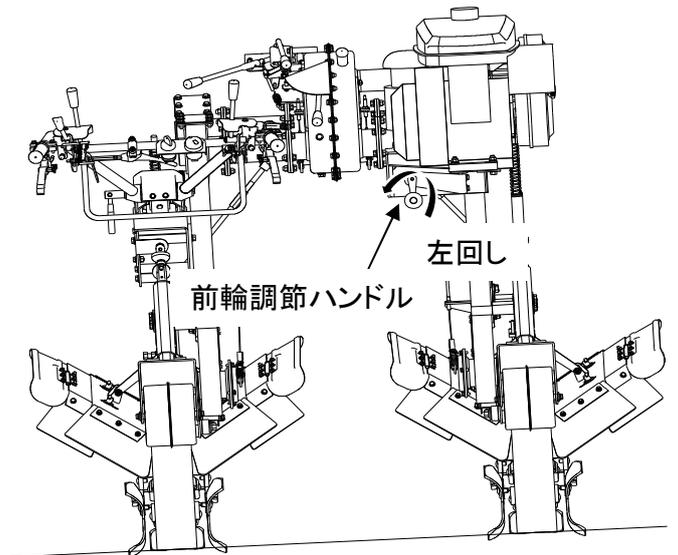
作業中に機体が傾いてきた際は、耕深が浅い側の前輪を、前輪調節ハンドルを左(耕深を浅くする方向)に回して対応します。一時的に耕深は浅くなりますが、機体の傾きは解消されます。

機体の傾きが解消されたら、接地している側の前輪を調整し土量を調整します。



## 補足

下図のように左に傾いた場合は、耕深が浅い側の前輪、つまり、右側の前輪を前輪調節ハンドルを左(耕深を浅くする方向)に回します。



# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■廃棄物の処理について



### 警告

廃棄物をみだりにすてたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- ※ 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- ※ 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
- ※ 廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

## ■日常の手入れ



### 注意

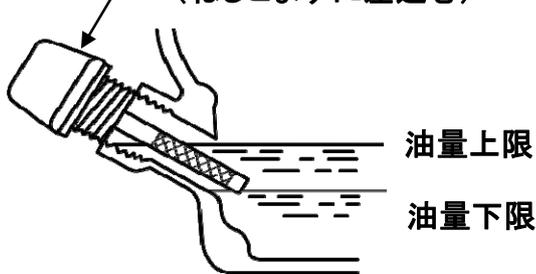
- ※ 給排油・点検・調整・清掃は、エンジンを停止しエンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
- ※ 平坦な場所に機械を安定させて行なってください。

## ■エンジンオイルの交換

### ◆給油のしかた

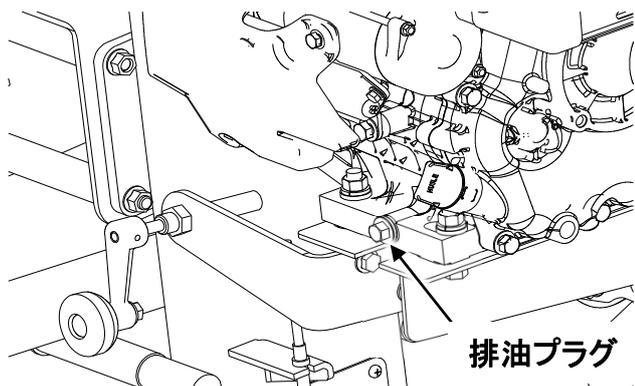
エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。

給油プラグ(オイルゲージ)  
(ねじこまずに差込む)



### ◆排油のしかた

機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。この時、必ずオイルパン等で受けてください。



## 重要

※ 粗悪なオイルを使用するとエンジンの寿命を急激に縮めます。エンジンオイルを交換、補充するには購入先でエンジンオイル 10W-30 とご指定の上お求めください。

(22頁のオイルの点検と交換表を参照)

※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

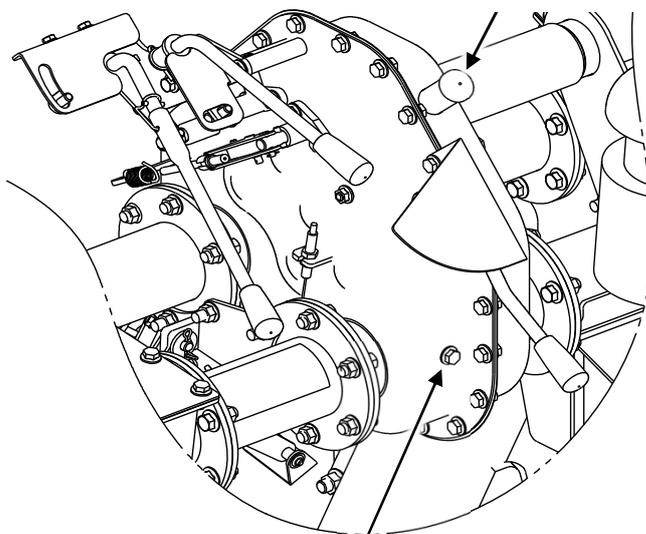
## ■ミッションオイルの交換

### (1)ミッションケース

#### ◆給油のしかた

機体を水平にし検油口まで給油してください。

ミッションオイル  
注油口



ミッションオイル  
検油口

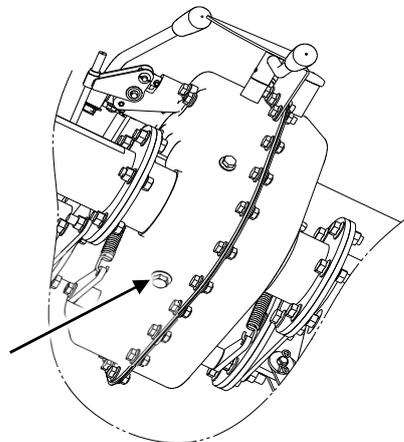
#### ◆排油のしかた

ミッションケース下部にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

## 補足

※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

排油プラグ

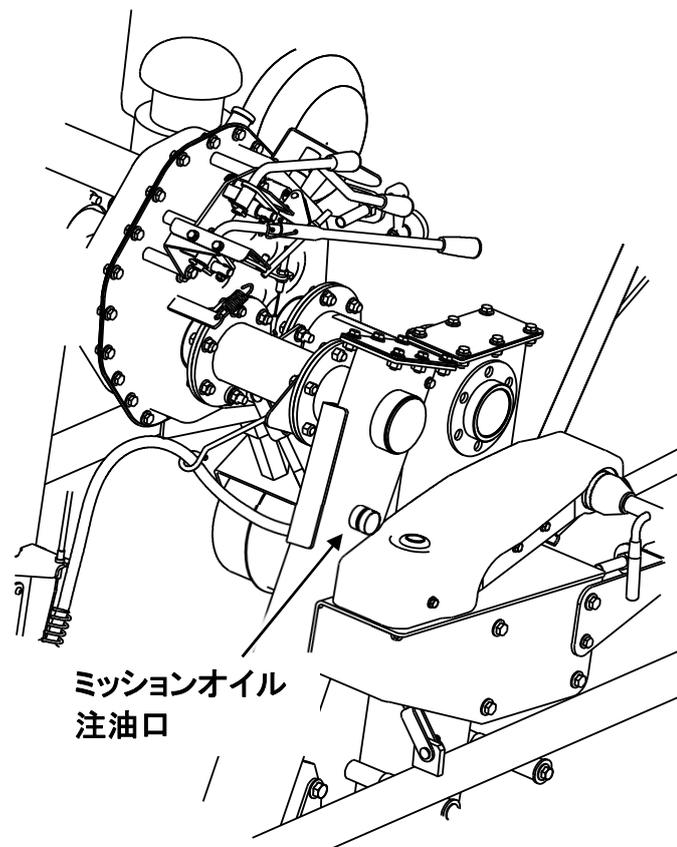


# 管理機の簡単な手入れと処置

(2)ロータリケース1(左右同量、同位置)

## ◆ 給油のしかた

機体を水平にし、規定量(1L)を給油して下さい。

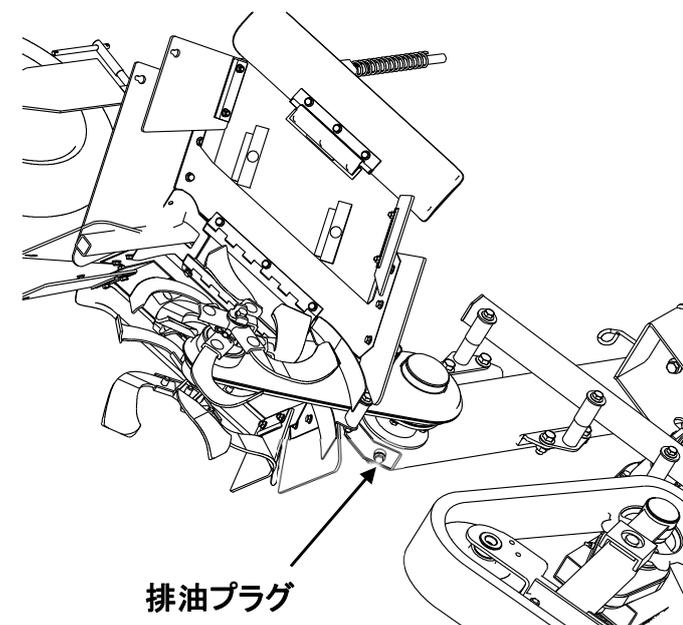


## ◆ 排油のしかた

ロータリケース下部にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

### 補足

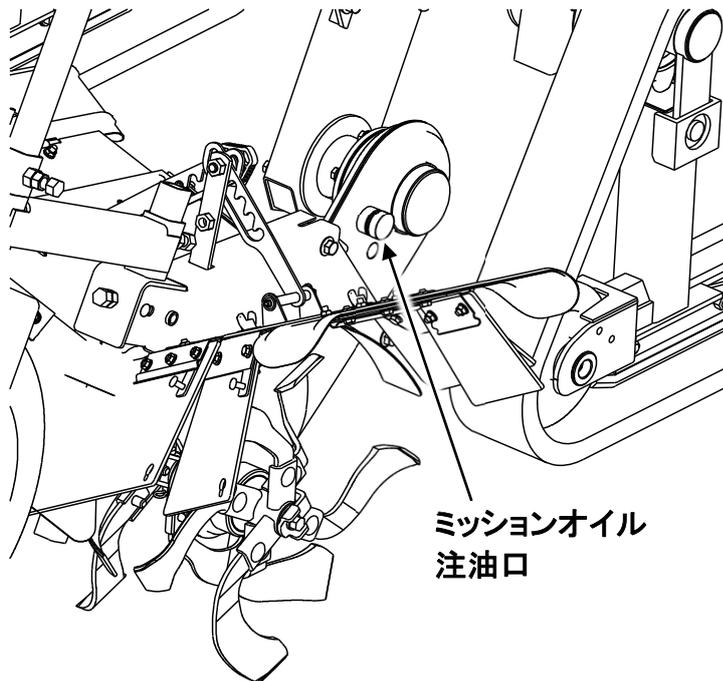
※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。



(3)ロータリケース2(左右同量、同位置)

## ◆ 給油のしかた

機体を水平にし、規定量(0.4L)を給油して下さい。



## ◆ 排油のしかた

耕耘軸のオイルシールを取り外し、廃油して下さい。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

### 補足

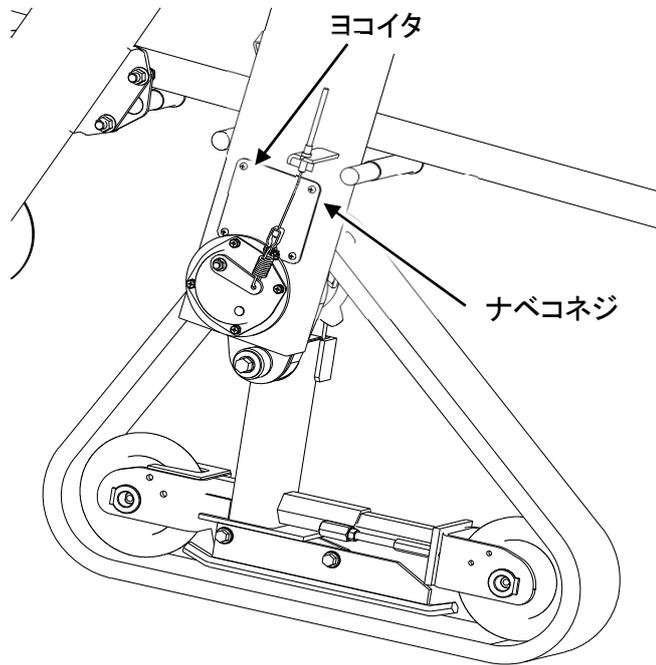
※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズ

# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■グリスの塗布、注入箇所

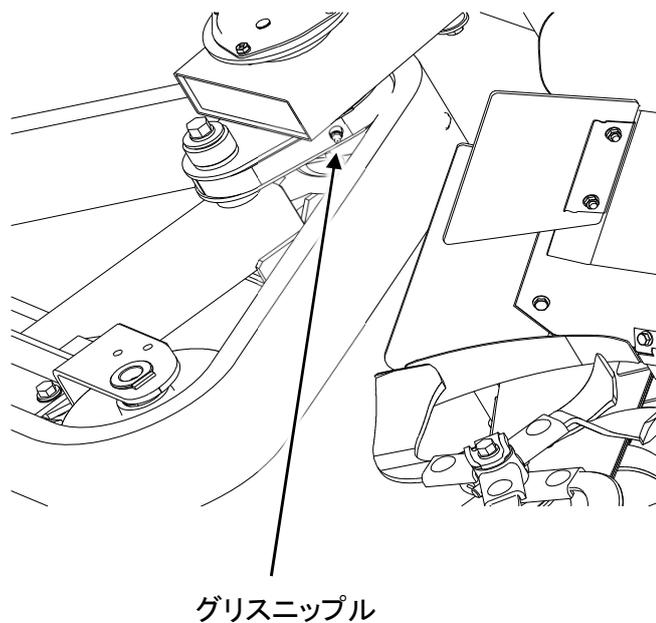
### (1) ソウコウケース内部

下図のナベコネジ4本を取り外しヨコイタを開けます。  
ヨコイタを開けるとチェーンが見えるので、チェーンに塗布してください。



### (2) クローラグリスニップル部

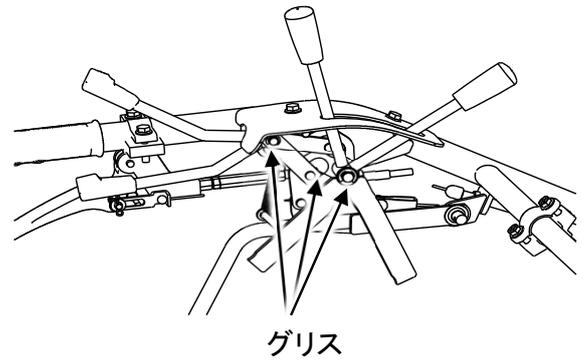
下図のグリスニップル部からグリスを注入してください。



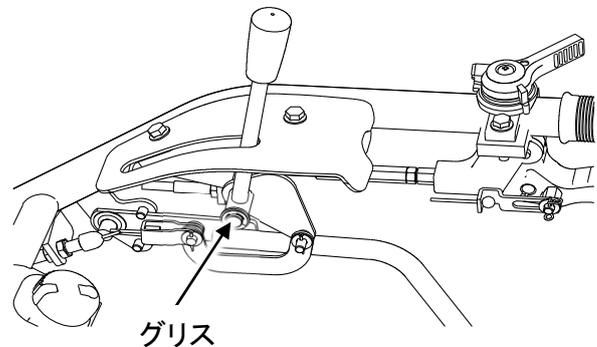
### (3) その他

各種レバー類、しゅう動部。

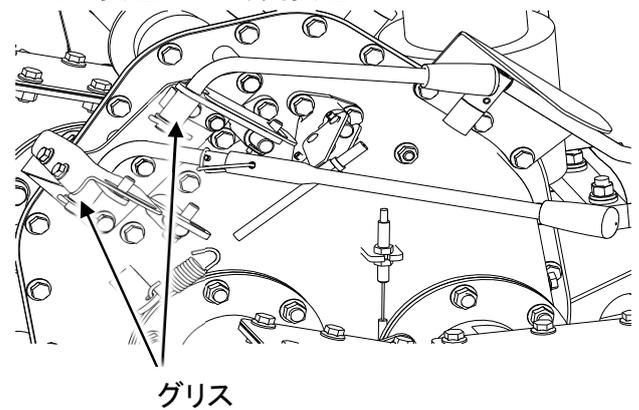
#### 主クラッチレバー側



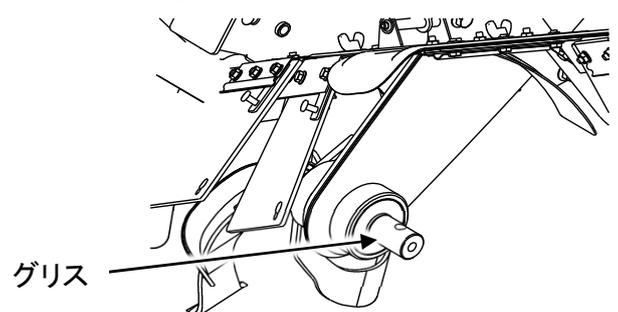
#### ロータリクラッチレバー側



#### ロータリ変速レバー、副変速レバー



#### コウウンジク(左右計4カ所)



# 管理機の簡単な手入れと処置

## 重要

- ※ 粗悪なオイルを使用するとミッションの寿命を急激に縮めます。  
ミッションオイルを交換、補充する際には 購入先でミッションオイル#80又は#90とご指定の上お求めください。  
(次頁のオイルの点検と交換表を参照)
- ※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

## オイルの点検と交換表

部位	項目 (オイル量)	点検方法	交換・点検		オイルの種類
			第一回目	以降	
エンジン	エンジンオイル(1.0L)	エンジン水平	20時間使用後	50時間使用後	10W-30
ミッションケース	ミッションオイル(2.8L)	機体水平	20時間使用後	年一回	#80又は#90
ロータリケース1	ミッションオイル(1.0L)	機体水平	50時間使用後	年一回	#80又は#90
ロータリケース2	ミッションオイル(0.4L)	機体水平	50時間使用後	年一回	#80又は#90

## ■エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

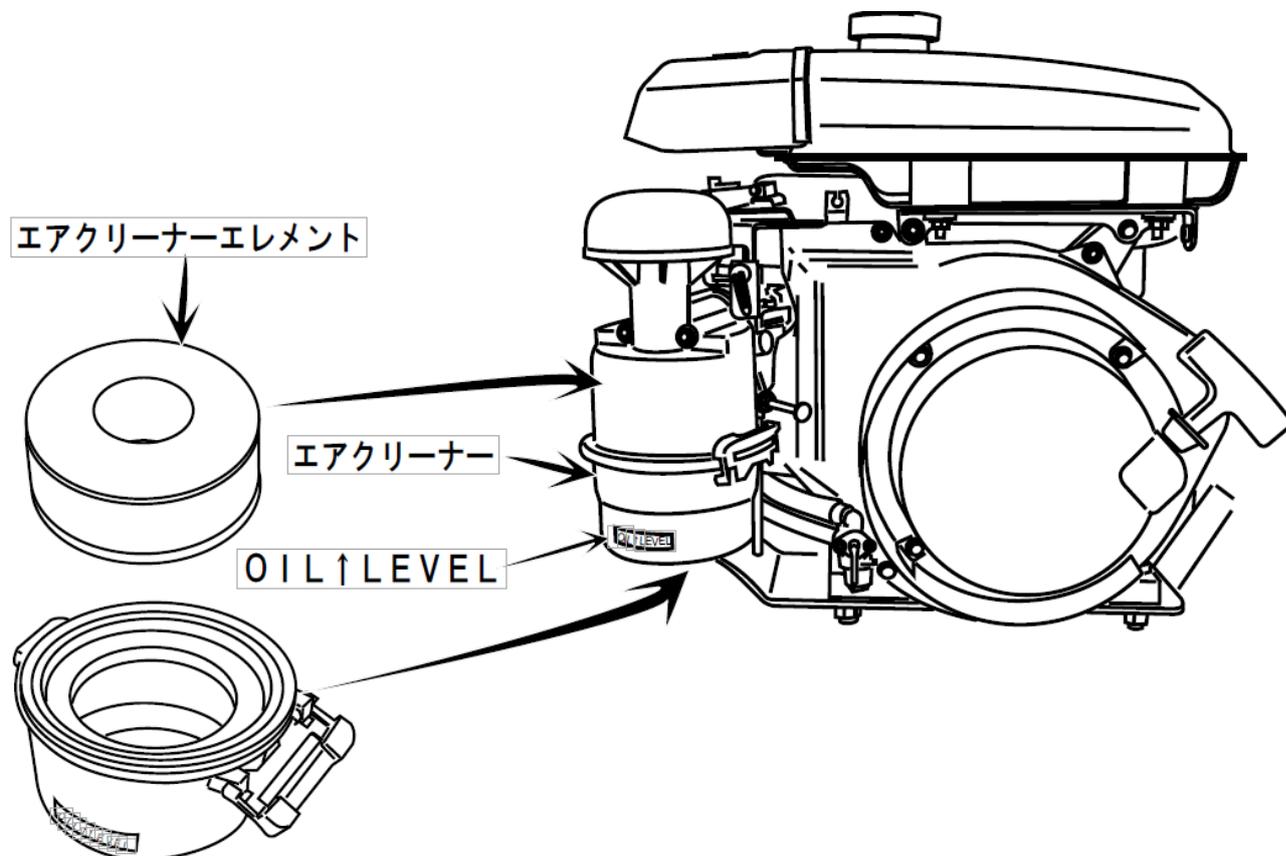
1. エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取り付けてください。
  2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
- 規定量・・・OIL ↑ LEVELと記載されているところ。

エレメント (オイル)	清掃 交換	通常	50時間毎
		ホコリの多い場合	毎日
		汚れがひどいとき	

- ※ チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は  
(1)ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸入口を向けてください。  
(2)毎日点検してください。
- ※ 規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。

## 重要

- ※ エアクリーナーエレメントを外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
- ※ 汚れたまま使用しますと、エンジン出力低下や故障の原因になります。



# 管理機の簡単な手入れと処置

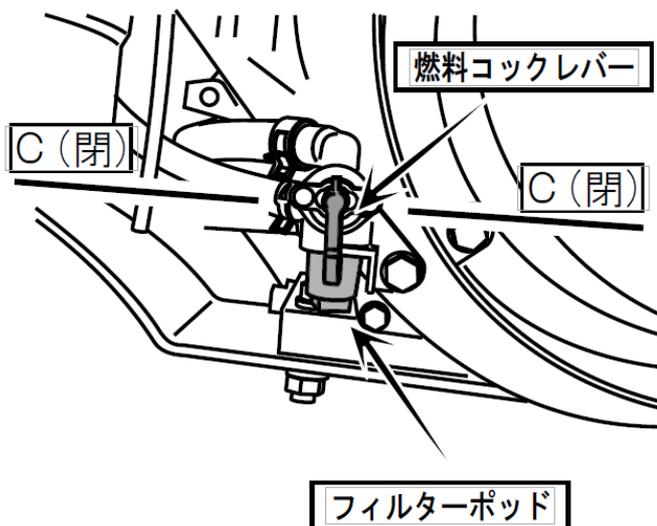
## ■燃料フィルタの清掃

 **注意**

※ 取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミは、ポットの底にたまりません。
2. 燃料コックレバーを[C]（閉）にし、フィルタポットを外しポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

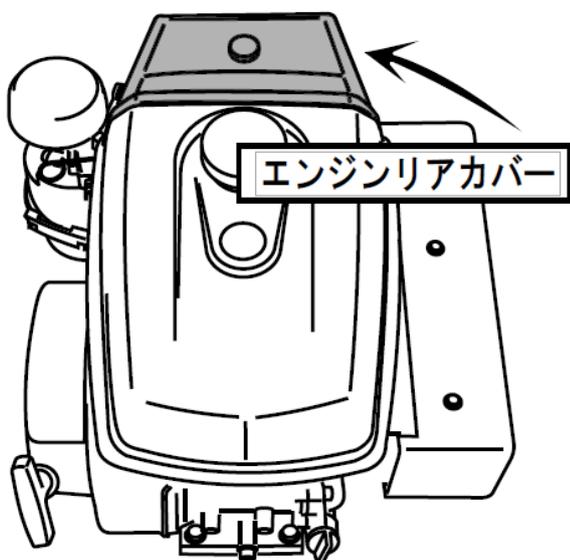


## ■点火プラグの調整・清掃・交換

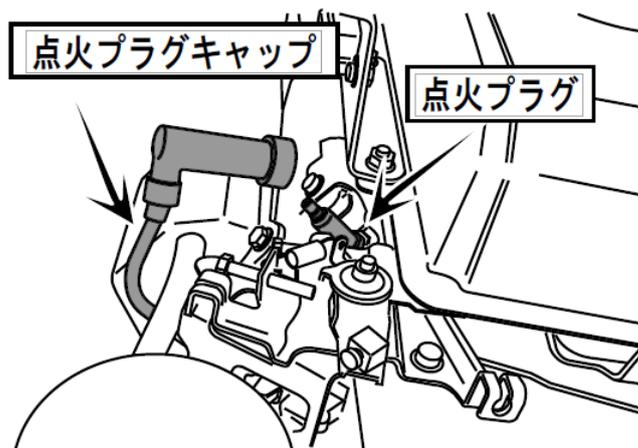
 **注意**

※ 高温部が冷えてから行なってください。

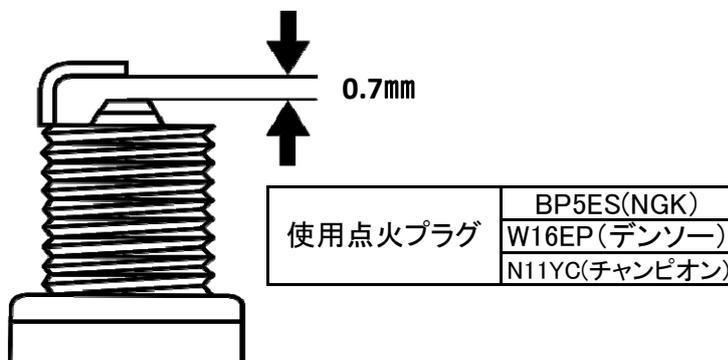
1. エンジンリアカバーを外します。



2. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。



3. 付属のプラグボックスでプラグを外して、電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
4. 電極の隙間は0.7mmになるように調整してください。
5. 点検清掃は6か月に1回行ってください。



6. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

- 重要**
- ※ プラグ締め付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で締め込んでから、プラグボックスで締め付けてください。
  - ※ 調整・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
  - ※ プラグを外したまま始動操作をしないでください。

# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■ ベルトテンションの調整

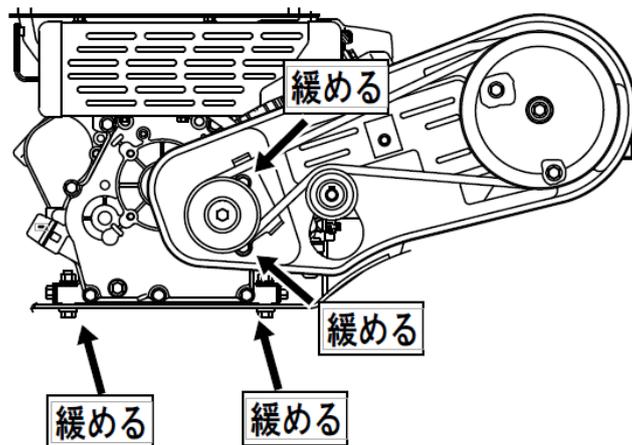
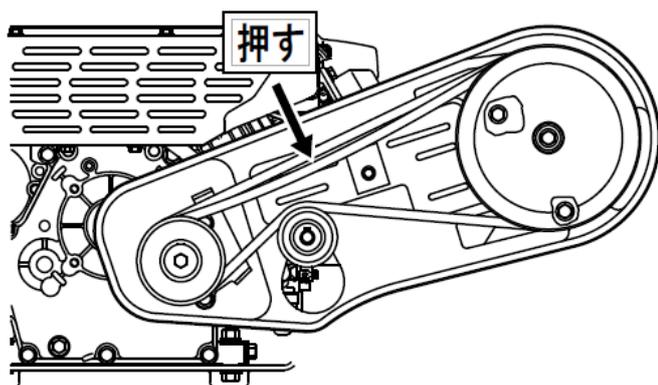


**警告**

- ※ ベルト調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
- ※ 調整が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ※ エンジンを始動する前に、変速レバーを中立にしてください。
- ※ 調整・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### ◆ 主クラッチケーブルによる調整

1. ベルトカバーのつまみボルトを外し、ベルトカバーを取外します。
2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押さえ10～15mmたわむ程度に、ナットでテンションプーリーを調整します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後にケーブルを再調整してください。

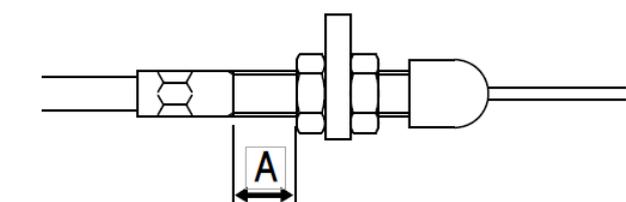
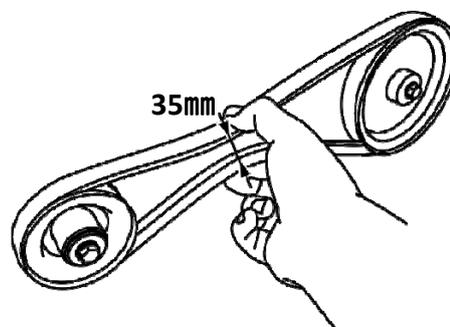


### 重要

- ※ 使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調整してください。
- ※ 主クラッチケーブルを調整した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]・[切]が確実に作動するか確認してください。

### ◆ 新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんでスキ間が約35mmにたわむくらいにして、エンジンを固定しているボルトを締付けてください。



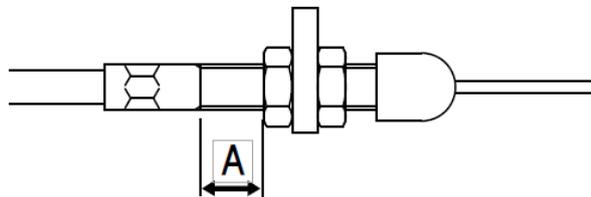
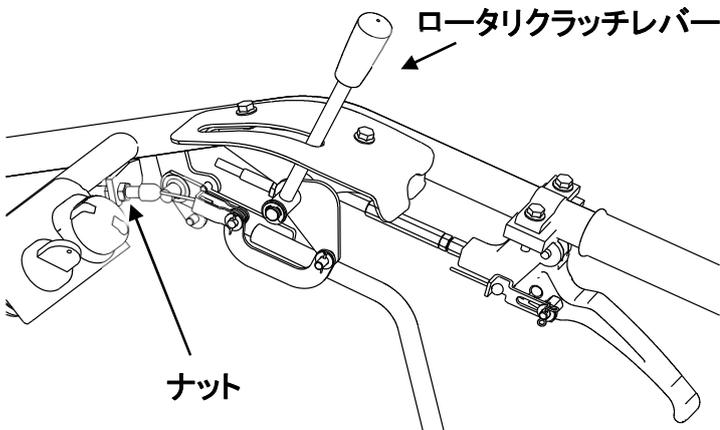
Aの部分を長くする	ベルトが張る
Aの部分を短くする	ベルトが緩む

# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■ロータリクラッチレバーの調整

ロータリクラッチレバーを操作したとき、クラッチの[入][切]の調子が悪いときは、ケーブル(ロータリクラッチ)のナットでケーブルの長さを調整してください。

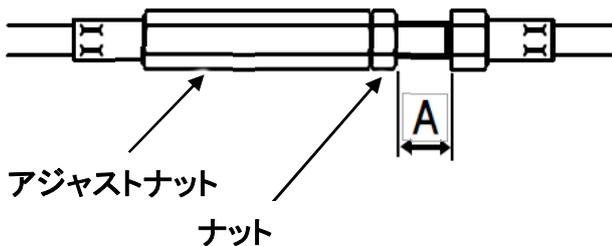
ロータリが入らないとき	Aの部分を長くする
レバーが重すぎるとき	Aの部分を短くする



調整が終わったらロックナットでしっかりと固定してください。

## ■高さ調節レバーの調整

1. ケーブル(ハンドル)にあるアジャストナットを固定しているナットを緩めます。

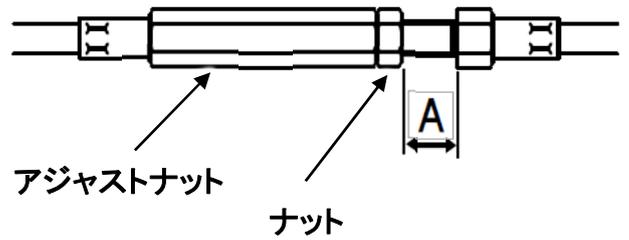


ハンドルががたつく	A部分を短くする
ハンドルが動かない	A部分を長くする

2. 調整が終わったらナットを締めてアジャストナットを固定してください。

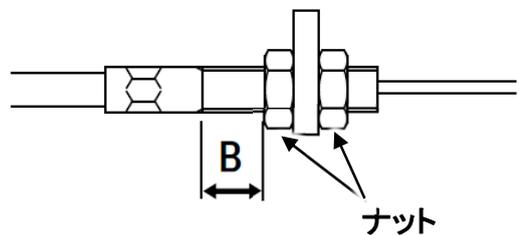
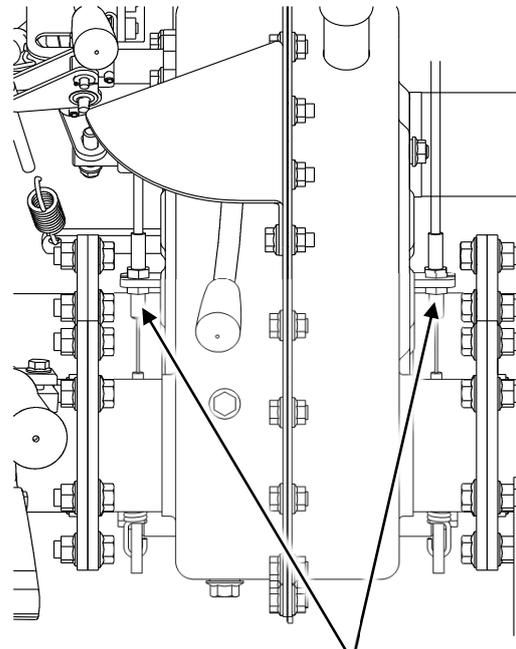
## ■サイドクラッチ/ブレーキの調整

1. ケーブル(サイドクラッチ)にあるアジャストナットを固定しているナットを緩めます。



クローラが動かない	A部分を短くする
サイドクラッチが切れない	A部分を長くする

2. 調整が終わったらナットを締めてアジャストナットを固定してください。  
3. 2で調整し切れなかった場合は、ミッションケース側のナットでケーブルの長さを調整してください。



クローラが動かない	B部分を短くする
サイドクラッチが切れない	B部分を長くする

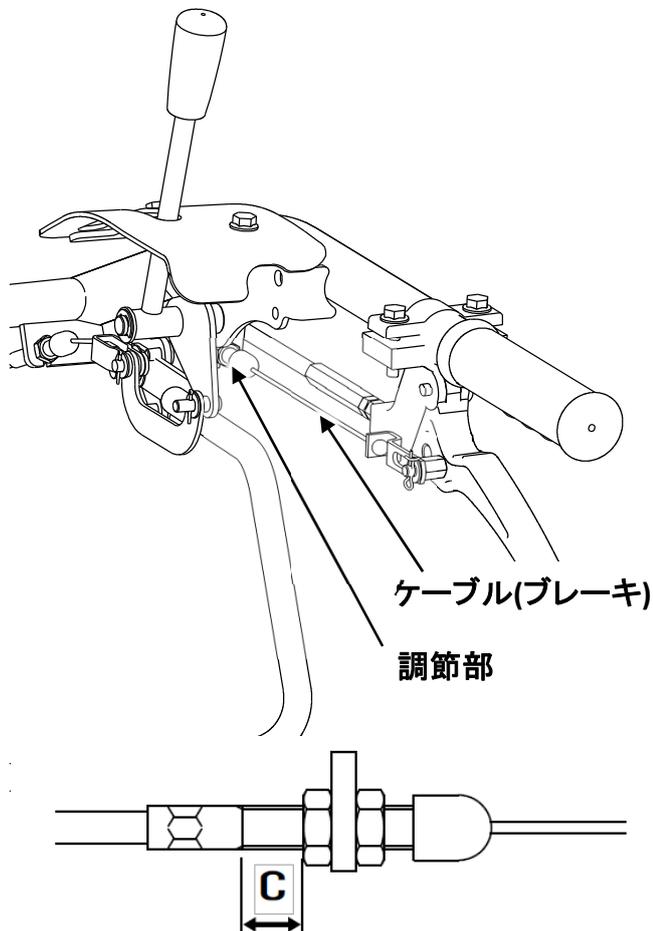
4. 調整が終わったらナットを締めて固定してください。

# 管理機の簡単な手入れと処置

## 5. ケーブル(ブレーキ)の調整

クラッチが切れているのに、クローラが回ってしまうときは、ケーブル(ブレーキ)のナットでケーブルの長さを調整してください。

ブレーキが握り始めから利いてる	C部分を短くする
ブレーキが利かない	C部分を長くする



調整が終わったらロックナットでしっかりと固定してください。

### 重要

※ケーブル(サイドクラッチ)はレバーとの遊びが無いように調整してください。

一方、ケーブル(ブレーキ)は、サイドクラッチが切れた後に利くよう調整してください。

本機のサイドクラッチレバーは

- ①サイドクラッチが切れる
- ②ブレーキが利く

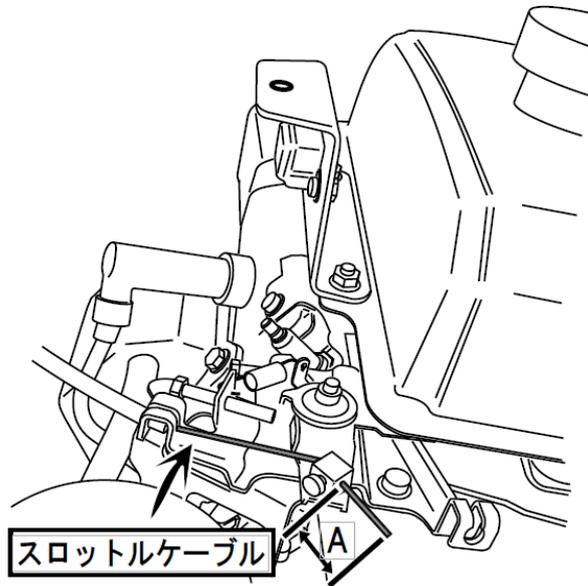
上記の順番で各ケーブルが機能することが理想です。使用環境によってもサイドクラッチの切れ具合は変化します。調整の後は、使用する圃場での確認作業を行ってください。

## ■スロットルレバーの調整

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上らないときは、スロットルケーブルを止めているネジをゆるめて調整します。

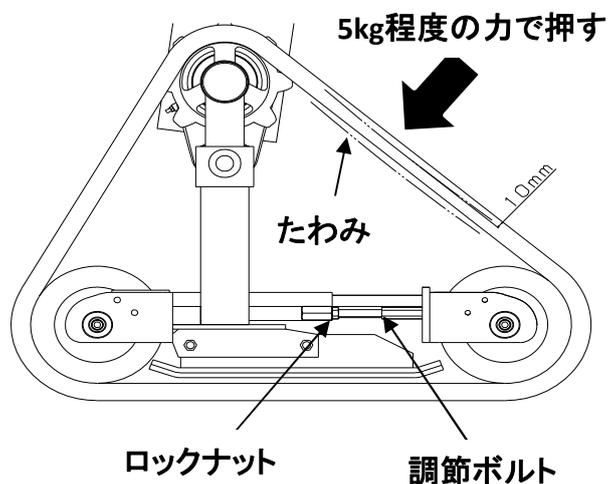
ケーブルのA部分が長くなるように調整するとエンジン回転数が高くなります。

調整にあたっては、購入先にご相談ください。



## ■クローラの調整

下図矢印の箇所を、5kg程度の力で押します。押した際のたわみ量が10mm以上の場合は、下記記載の調節ボルトを伸ばし、たわみ量が10mmになるよう調節してください。



### 重要

※ 使用初期はクローラが伸びやすいため、10時間使用後、調節ボルトで再調整してください。

# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないように油やグリスを塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますのでよく点検・清掃を行なってください。

### 重要

※ 水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が入らないように気をつけてください。

## ■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

### 重要

※ コックを開いたまま保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

## ■長期保管時の手入れ



### 注意

- ※ カバーをかけたり、納屋に保管するときは、火災の恐れがあるため、エンジンが冷えてから行ってください。
- ※ 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発、火災の恐れがあります。

1. 主クラッチレバーとエンジンスイッチ、キースイッチは[切]の状態にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレターフィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。  
(1ヶ月以上使用しないとき)
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントをきれいに掃除しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ、湿気や草、ワラ及びホコリのない場所に置きます。

### 重要

※ ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

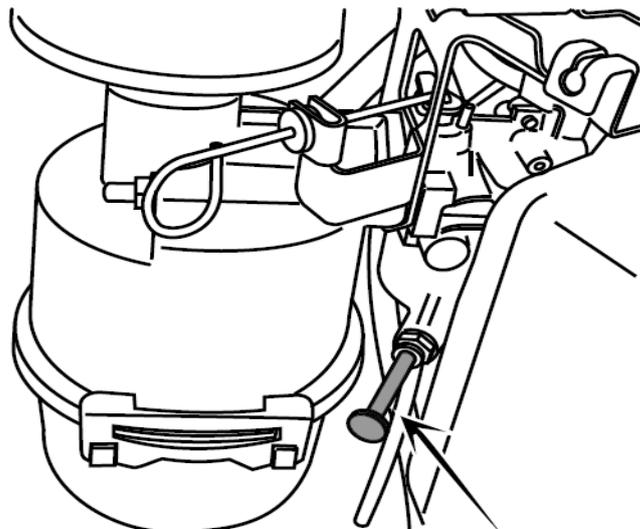
## ■燃料の抜取り



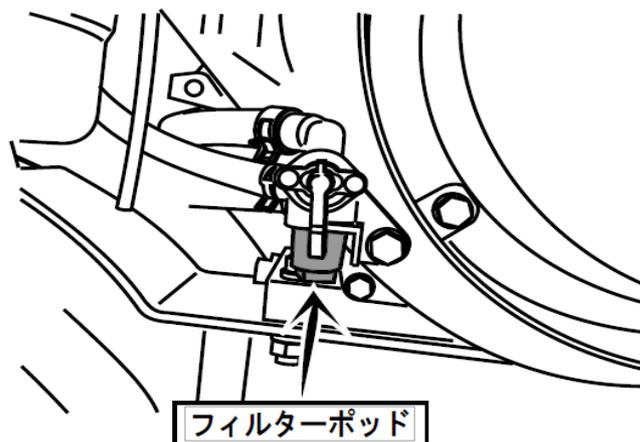
### 注意

- ※ 燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での燃料の抜取りは絶対に行わないでください。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

1ヶ月以上使用しないときは、燃料タンクのガソリンはポンプなどで抜取り、キャブレター内は排出つまみを引いてフィルタポットは外して全部抜取ります。



排出つまミ



フィルターポッド

### 重要

※ 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

# 管理機の簡単な手入れと処置

## ■洗車時の注意

高压洗浄機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高压洗浄機の取扱い説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



**注意**

機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散にし2m以上離して洗浄してください。

もし、直射したり、不適切な近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の破損・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
2. 機械の破損・損傷・故障原因になります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

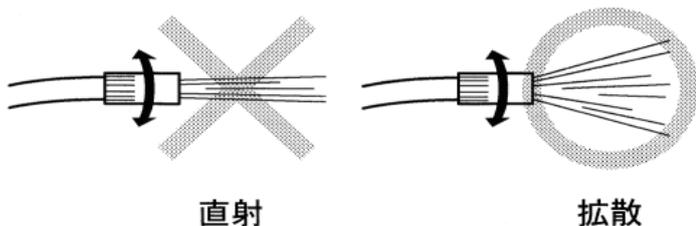
例) (1) シール・ラベルの剥がれ。

(2) 電子部品・エンジン等への侵入による故障。

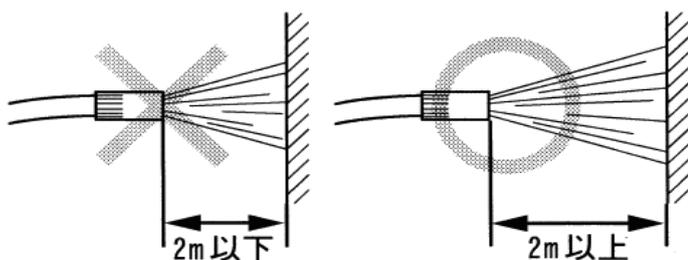
(3) 車輪、オイルシール等のゴム類樹脂類等の破損。

(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ。

### 直射洗車厳禁



### 近距離洗車厳禁



# 管理機を運搬するとき

## 自動車(トラック)への積み込み、運搬



**注意**

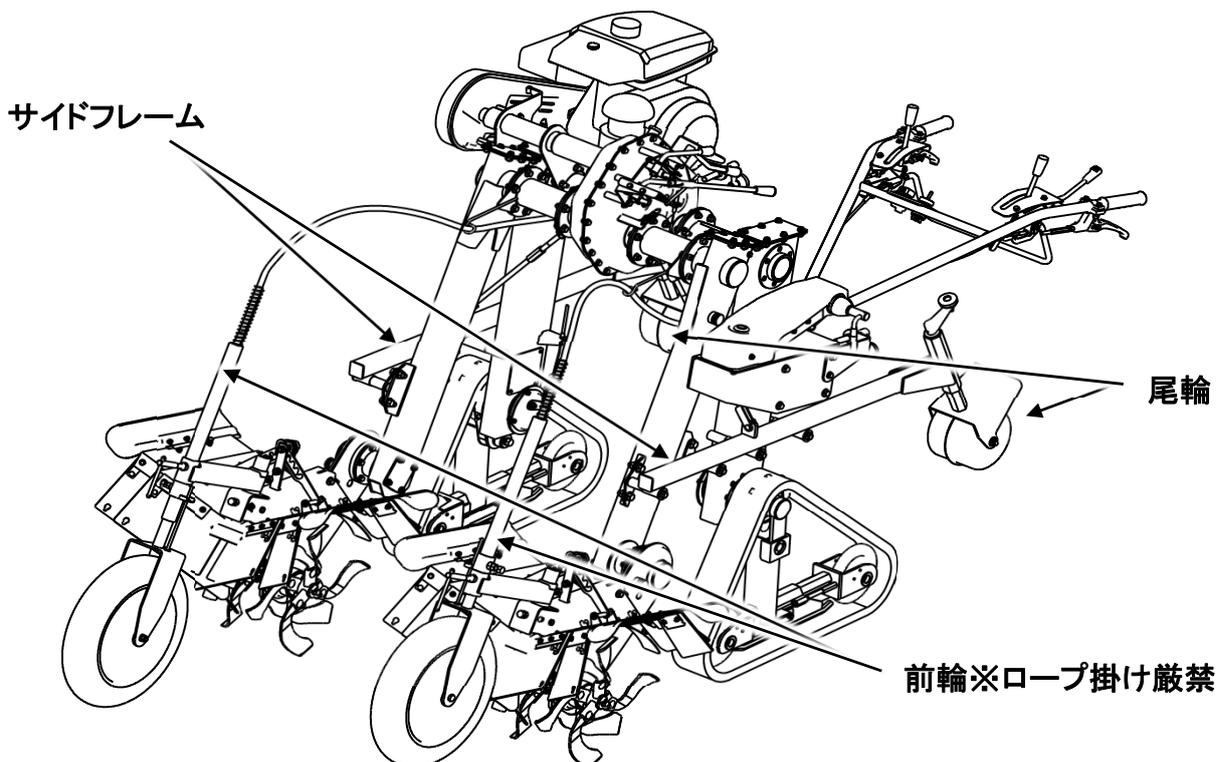
- ※ 積み込み、運搬は平坦な交通のじやまにならない安全な場所で行ってください。
- ※ アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対してアユミの長さ[4以上]のものを使用し、確実に固定してください。
- ※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で行なってください。
- ※ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒の恐れがあります。
- ※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむ恐れがあります。
- ※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積み込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタソクに移して運搬してください。火災の恐れがあります。

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは[1速]で、下りは[後進]にします。
4. 運搬時は爪とクローラがしっかり床面につくようにします。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
6. 機体にロープを掛けるときは、左右のビリンとサイドフレーム、計4カ所を固定して下さい。  
※前輪は絶対に縛らないで下さい。破損の恐れがあります。

7. 燃料コックレバーを[閉]にします。
8. 雨天時はエアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせてください。

### 重要

- ※ ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないよう気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- ※ エアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナー性能が低下します。
- ※ 燃料コックレバーを[開]いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。
- ※ 前輪は絶対に縛らないで下さい。ロータリケース取付部が破損する恐れがあります。



# 付表

## ■主要諸元

販売型式名		KW110N	
条間		900	1000
機体寸法	全長 (mm)	2500	
	全幅 (mm)	1430	1530
	全高 (mm)	1470	
機体質量(重量) (kg)		320	
エンジン	型式名	GB300LL	
	種類	空冷4サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン	
	総排気量 (L{cc})	0.296(296)	
	連続定格出力(kW{PS})/rpm)	5.5kw(7.5PS)/1800rpm	
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	5.4	
	始動方式	リコイルスタータ式/セル仕様	
走行部		ゴムクローラ 前進4段/後進2段	
ロータリ部		低速/中速/高速 計3段	

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

# 付表

## ■標準付属品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

## ■主な消耗部品一覧

品名	品番	数量	備考
Vベルト SB-46 ローエッジコグ	0751500046	2	
ケーブル(メインクラッチ)	231800000706000	1	
ケーブル(ロータリクラッチ)	231800000708000	1	
ケーブル(サイドクラッチ,L)	231800000712000	1	
ケーブル(サイドクラッチ,R)	231800000713000	1	
ケーブル(スロットル)	231800000714000	1	
ケーブル(ブレーキ,クローラ,L)	231800000715000	1	
ケーブル(ブレーキ,クローラ,R)	231800000716000	1	
ケーブル(ハンドルジョウゲ)	229000000412001	1	
スイッチアッシ	236800000362001	1	
オイルシールTCD30-62-13L	0955306213	4	耕耘軸

## 爪、爪軸について

多様な溝幅、作業に対応できるよう、各種取り揃えております。  
ご要望の爪軸、耕幅を、購入先にご相談ください。

# トラブルと対処

## ■エンジンが始動しないとき

原因	処置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。(12ページの「運転のしかた」を参照)
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。または新しいものと交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何度も引きガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しいものと交換する。
● 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しいものと交換する。

## ■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。	チョークを戻す(開く)。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して掃除する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して掃除する。
● スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

## ■エンジンが振れる、異音が発生する。

原因	処置
エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

## 補修用部品の供給年限について

---

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番 231800000743000

・製品のご相談は下記の販売店へ



## 関東農機株式会社

本社工場/本社営業所 〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493  
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場/福島営業所 〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町 57  
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場/東北営業所 〒028-4132 岩手県盛岡市渋民字岩鼻 20-55  
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所 〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351  
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760